

國學院大學學術情報リポジトリ

Total contents of Nipponbungaku, Kokubungaku
and Kotenkokyushokoen

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Fujita, Hiromasa, Kaminishi, Wataru メールアドレス: 所属: |
| URL | https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/1959 |

【凡例】

○本総目録は、國學院大學研究開発推進機構伝統文化リサーチセンターの「國學院の学術資産に見るモノと心」プロジェクトにおいて進められて来た、皇典講究所・國學院の編集・出版に関する刊行物目録データベースの作成に伴ふ明治期国学関係雑誌の目録データベース化作業の成果の一部である。また、本総目録は、伝統文化リサーチセンターのウェブサイトで公開し、広く研究者の利用の便に供することとしてゐる。

○『日本文学』『国文学』の総目録作成においては、全号揃の國學院大學図書館所蔵本を用ゐ、第一の初版本などその一部については、財団法人無窮會図書館所蔵本を参照した。また、先行する業績である深萱和男『明治の国文学雑誌』（笠間書院、昭和五十三年）「附三 日本文学・国文学総目次」も適宜参照した。但し、本目録では、基本的に目録（目次）欄の題目表記を参照しつつ本文の表題を採用し、和歌各首の詞書の一つ一つや頁数、原本に記されてゐる著者の肩書、或は複雑な出版・印刷の事情を鑑み、毎巻の「発行兼編輯人」「印刷人」「発行所」「大売捌所」のデータも逐一記載した。

○『皇典講究所講演』の総目録作成においては、当初、全号揃の國學院大學図書館所蔵本を使用する予定だった。しかし現在、同誌は國學院大學図書館において（貴重書）扱ひとなつてをり、また、平成二十年三月の國學院大學学術メディアセンター棟竣工に伴ふ図書館移転の際、館内環境の関係上、一旦全ての（貴重書）が外部倉庫に保管されて以来、未だに学内への搬入が実現しないまま披見が叶はない状況にある。そこで本総目録の作成においては、平成十九年度に國學院大學研究開発推進機構伝統文化リサーチセンターが古書店より購入した『皇典講究所講演』を使用し、さらには國學院大學研究開発推進機構校史・学術資産研究センター長・阪本是丸教授が所蔵する『皇典講究所講演』を

借用してこれをも参照することとした。双方を併せればほぼ全体がカバー出来るものの、全号が揃ふ訳ではないため、全号が揃ふ財団法人無窮會図書館所蔵本、或は伝統文化リサーチセンターが複写蒐集したマイクロフィルム版『明治期國學研究雑誌集成』（雄松堂出版・平成八年）所収の『皇典講究所講演』（東京大学附属図書館「文学部」本居文庫本）で補つた。また、前掲『明治期國學研究雑誌集成』「解題・総目次」所収の『皇典講究所講演』の総目次も適宜参照したが、本目録では、基本的に表紙目次の題目表記を参照しつつ本文の表題を採用し、頁数、或は毎巻の「発行者」「印刷者」「印刷所」「売捌所」のデータも逐一記載した。

○『日本文学』『国文学』『皇典講究所講演』所載のいくつかの論考は、明治三十六年から三十七年にかけて大日本圖書株式會社から刊行された、國學院編纂の『法制論纂』『國史論纂』『國文論纂』『法制論纂續編』といふ四論集に改めて転載されてゐる。この皇典講究所・國學院における講演↓雑誌掲載↓論集刊行といふ三段階のユニークな研究発信を具さに窺ふため、本総目録では「備考」欄にその情報を明記した。

○引用の題名については、原則として原本に則した表記（人名は本「旧」字に統一）としたが、活字等の関係上、一部その限りでない部分もある。また、原本の目録中、題名などの明らかな誤植等は適宜これを修正の上、記載した。

○本総目録の作成過程においては、まづ上西巨（現・國學院大學大学院文学研究科神道学・宗教学専攻博士課程後期在籍）が平成十九・二十年、伝統文化リサーチセンターの作業協力者として地道な基礎調査や作業（データ打ち込み等）に尽力し、原案を作成した。その上で、最終的に本総目録作成の監修に当たつてゐる藤田大誠（國學院大學研究開発推進機構伝統文化リサーチセンター助教）が補訂を加へて完成した。それ故、本目録の誤植や不備等の責任は全て監修者たる藤田にあることをお断りしておく。

（藤田大誠 記）

『日本文學』 総目録

| 號 | | 印刷・出版年月日 | | 題名 | | 著者 | | 頁數 | | 備考 | |
|---|--|--|--|--|--|--------------------------------------|--|--|--|---------------------------|--|
| 第一 | | 明治二十一年八月二十五日發兌 九月十四日印刷 十五日再版 | | 發行兼編輯人 千葉縣平民 飯島誠 小石川區小日向武島町十七番地 | | 印刷人 東京府平民 澁谷吉彌 麹町區飯田町五丁目八番地 | | 發行所 水穂會 麹町區飯田町 五丁目八番地 | | 大賣捌所 敬業社 東京府神田區裏神保町 | |
| 日本文學發行之趣旨 | | 日本文學 | | 文學博士 小中村清矩 | | 一〇五 | | 著者の明記は無いが『皇典講究所 五十年史』に拠れば「松野英雄氏 の執筆に係るもの」とあり | | | |
| 日本文學の起原 | | 日本文學 | | 文學博士 小中村清矩 | | 五〇九 | | | | | |
| 菊桐御章考 | | 神武天皇實算の事 | | 文學博士 黒川眞頼 | | 九〇一五 | | | | | |
| 日本古代法律研究の必用 | | 神武天皇實算の事 | | 井上頼國 落合直文 | | 一五〇一七 一七〇二二 | | | | | |
| 思想を精密ならしめんと欲せば國語を正 くせよ。併せて國語の愛國心の一大原因 なるを説く | | 農學士 矢島錦藏 | | 農學士 矢島錦藏 | | 二二〇二五 | | | | | |
| 神武天皇紀講義 | | 故 久保季茲謹撰 | | 故 久保季茲謹撰 | | 二五〇二八 | | 前書き末尾に「久保惠隣 識」と あり | | | |
| 文章學に就きての講話 | | 文科大學教授 物集高見 | | 文科大學教授 物集高見 | | 二八〇二九 | | | | | |
| 雜報 | | 明治會 修史局の事業 帝國文科大學史學科課程改正 古典講習科卒業生 東洋學會 チャンパーレーン氏の日本上古史評論 落合直澄君の古代文字考 寄書 | | 二九〇三四 | | | | | | | |
| 日本古代の政治小説 | | 文學士 辰巳小次郎 | | 文學士 辰巳小次郎 | | 三四〇三八 | | | | | |
| 漫録 | | 東京 麹亭飯人 | | 東京 麹亭飯人 | | 三八〇四〇 | | | | | |
| 友の説 | | 東京 海角房 投 | | 東京 海角房 投 | | 四〇〇四二 | | | | | |
| 決闘保存主義 | | 文苑 | | 文苑 | | 四〇〇四二 | | | | | |

| | | | | | |
|---------------------------|---------------|--|---|---|--|
| | | 第二 明治二十一年九月二十四日印刷 二十五日出版 | | | |
| 水總會開設をよろこびほぎてしるす詞 (無題) | 祝日本文學發行 | 曉水鶏 水樓晚涼 伊香保日記のうちに 山月初昇 蒼海雲低 | 發行兼編輯人 千葉縣平民 飯島誠 小石川區小日向武島町十七番地 | 現神の解 日本文學 讀史閑話 菊桐御章考(承前) 文章學に就きての講話(承前) 史を論じ并せて日本文學の發行を祝す 思想を精密ならしめんと欲せば國語を正 くせよ。併せて國語の愛國心の一大原因 なるを説く(承前) | 本居豐穎 七十五叟 鈴木重嶺 大關克 |
| 寄書 | 日本古代の政治小説(承前) | 風俗畫報 日本上古年代考 東洋學會の演舌 | 東京學士會院長幹事改選 東京圖書館 ボロニヤ大學校八百年祭 フロレヒツ氏 文章會 言語取調所 日本上古年代考 東洋學會の演舌 | 農學士 矢島錦藏 | 發行所 日本文學發行 所 麹町區飯田町 五丁目八番地 |
| 日本古史上ノ一大疑問 | 文學士 辰巳小次郎 | | | 文學博士 川田剛 文學博士 黒川眞頼 文科大學教授 物集高見 文學士 棚橋一郎 | 大賣捌所 敬業社 東京府神田區裏神保町 |
| 雜録 | 濱田健次郎 | | | 文學士 濱田健次郎 | 歌五首 |

第三

明治二十一年十月二十四日印刷
二十五日出版

| | | | |
|--|----------------------|----------------|--|
| 唐李邕奪 _レ 日本ノ船貨ヲ殺 _レ 其人ヲ 所感を記す | 碧海居士 投 | 三六〇三八 | 前書きに「文科大學教授内藤耻叟先生の寄送」とあり |
| 文苑 | 鷹山樵士 | 三八〇四〇 | |
| 讀和氣公傳 | 故 堀秀成 | 四〇〇 | 和文 |
| 鹽原ゆあみの記 | 久米幹文 | 四〇〇四二 | 和文 |
| 泊舟 | 久我建通 | | |
| 雲 | 福羽美靜 | | |
| 水邊立秋 | 岩下清綱 | | |
| 朝露 | 黒田清綱 | | |
| 山家暮秋 | 千家尊福 | 四二 | 歌五首 |
| 發行兼編輯人 千葉縣平民 飯島誠 | 印刷人 東京府平民 澁谷吉彌 | 發行所 日本文學發行所 | 大賣捌所 敬業社 |
| 小石川區小日向武島町十七番地 | 麹町區飯田町五丁目八番地 | 麹町區飯田町五丁目八番地 | 東京府神田區裏神保町 |
| 尚武の國風は維持せざるべからず 日本文學 | 文學博士 川田剛 | 一〇六 | |
| 讀史閑話(承前) | 文學博士 黒川眞頼 | 六〇九 | |
| 菊桐御章考(承前) | 文科大學教授 物集高見 | 九〇二二 | |
| 文章學に就きての講話(承前) | 農學士 矢島錦藏 | 一三〇一五 | |
| 思想を精密ならしめんと欲せば國語を正 なると説く(承前) | | 一六〇二四 | |
| 雜報 | | | |
| 御眞影拜戴 授業囑托 修史局の史料 東京圖書館月報 美術學校 實物取調委員の出發 日本の畫工を評す 懸賞日本歴史 商業史 亞細亞協會 日本古來財産相續法 帝國紀年私案 | | 二四〇二八 | ここで紹介された丸山正彦「日本古來財産相續法」は國學院編纂『續法制論纂』(第十五)に収録 |
| 寄書 | 文學士 嘉納治五郎 | 二八〇三三 | |
| 柔術及び其起原 | 文學士 土子金四郎 | 三三〇三五 | |
| 歌は洒落よりいづるか。洒落は歌よりいづるか | | | |
| 雜録 | 碧海老人 投 | 三六〇三八 | |
| 亡友の辭世 | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|---|--|---|--|---|------------------------------------|
| <p>第四 明治二十一年十二月二十四日印刷 二十五日出版</p> | | <p>發行兼編輯人 千葉縣平民 飯島誠 小石川區小日向武島町十七番地</p> | <p>柔術及び其起原 歌は酒落よりいづるか。酒落は歌よりいづるか 雑録 亡友の辭世 文苑 觀競馬 見射術習業歌 鹿 海邊霧 舟にて松島を廻りて 松風入琴 從軍行</p> | <p>文學士 嘉納治五郎 文學士 土子金四郎 碧海老人 投 田中賴庸 故 權田直助 物集高見 小中村清矩 木郎正辭 本居豐穎 久米幹文</p> | <p>文學士 二八〇三三 文學士 三三〇三五 三六〇三八 三九〇四〇 四〇 四〇</p> | <p>發行所 日本文學發行 所 麹町區飯田町 五丁目八番地</p> | <p>大賣捌所 敬業社 東京府神田區裏神保町</p> |
| <p>國體と國家の獨立及び幸福とは異名の同物なり</p> | <p>矢嶋錦藏 稿</p> | <p>一〇五 四〇頁下段の困み欄に「本誌巻頭に掲げたる「國體と國家の獨立及幸福とは異名の同物なり」といへる一篇は矢嶋錦藏氏の國體論中の一章なるを其の主意吾儕の見る処と異らざるを以て會説にかへたるなり此事はじめに記すべきを漏せるよりこゝに一言す」とあり</p> | | | | | |
| <p>日本文學 古代錢穀出學利子考 文章學に就きての講話(承前) 千字文貢上辨 國史と愛國心と 國體私論 雜録</p> | <p>文學博士 小中村清矩 文科大學教授 物集高見 木村正辭 三上參次 丸山正彦</p> | <p>五〇八 八〇一〇 一一〇一四 一四〇一〇 二〇〇二五</p> | | | | | |
| <p>順德帝の山陵 日本國勢取調 修史局の廢止 大日本地誌 私立大學 古事類苑 大博士の號果して誰に歸すべき乎 伊學協會 歷史取調 神田孝平氏東西地主考 好古會</p> | <p>二五〇三三</p> | | | | | | |

第五

明治二十一年十二月十七日印刷
十八日出版

| | | | | | | | |
|--|--|--|---|--|--|---|---------------|
| 斯文學會 本學青年會 日本の一美術家を失ふ 愛媛大遊園 髮繡曼陀羅 大政三遷史 寄書 | 日本古代の政治小説 日本古史上ノ一大疑問(承前) | 文苑 歌人論 野夕立 行路霧 野霜 華盛頓 弓矢 附録 | 神武天皇紀講義 發行兼編輯人 千葉縣平民 飯島誠 小石川區小日向武島町十七番地 | 山田伯演説の筆記 | 井上毅君演説筆記 國體と國家の獨立及び幸福とは異名の同 物なり(承前) 日本文學 菊桐御章考(承前) 日本帝國文教の起原 大御寶の説 雜報 | 天皇々族の著書 皇典講究所の改正 教育史の編纂 修史事業 經世評論并學藝 雜錄 國粹の解釋 文苑 | 時雨ふる日物にかきつけたる |
| 文學士 辰巳小次郎 濱田健次郎 | 文學士 飯田武郷 間宮八十子 下田歌子 税所敦子 丸山梅子 小池道子 | 故 久保季茲 | 印刷人 東京府平民 澁谷吉彌 麴町區飯田町五丁目八番地 | 矢嶋錦藏 稿 | 文學博士 黒川眞頼 文科大學教授 内藤耻叟 大關克 | 雨峯樵史 | 故 河内菽子 |
| 三三〇三六 | 三六〇三九 | 三九〇四〇 | 發行所 日本文學發行 所 麴町區飯田町 五丁目八番地 | 一〇八 | 一七〇二三 二三〇二七 二七〇三一 | 三二〇三六 | 三九〇四〇 |
| | | | 大賣捌所 敬業社 東京府神田區裏神保町 | 前書きに「編者曰く左の一篇は去 まし六日の夜山田伯爵の皇典講究 所にて演説せられたるを筆記した るものなり」とあり | | | 和文 |

| | | | | |
|-----------------------------------|--|--------------------------------------|--|------------------------------|
| 第七 明治二十二年二月二十四日印刷 二十五日出版 | 發行兼編輯人 千葉縣平民 飯島誠 小石川區小日向武島町十七番地 | 印刷人 東京府平民 澁谷吉彌 麴町區飯田町五丁目八番地 | 發行所 日本文學發行 所 麴町區飯田町 五丁目八番地 | 大賣捌所 敬業社 東京府神田區裏神保町一番地 |
| 第六 明治二十二年一月二十四日印刷 二十五日出版 | 發行兼編輯人 千葉縣平民 飯島誠 小石川區小日向武島町十七番地 | 印刷人 東京府平民 澁谷吉彌 麴町區飯田町五丁目八番地 | 發行所 日本文學發行 所 麴町區飯田町 五丁目八番地 | 大賣捌所 敬業社 東京府神田區裏神保町一番地 |
| 山家初冬 或る山里にて 池上霰 老後戀 燈 | 鈴木重嶺 海上胤平 林龜臣 三田葆光 大澤清臣 | | | 歌五首 |
| 日本文學 | 井上毅 文科大學教授 | | 一 一〇五 | |
| 孝說 | 井上毅 文科大學教授 | | 一 一〇五 | |
| 文章學に就きての講話(承前) | 井上毅 文科大學教授 | | 一 一〇五 | |
| 我國固有の風俗を研究するの必要 | 井上毅 文科大學教授 | | 一 一〇五 | |
| 國體私論(承前) | 農學士 菊地熊太郎 | | 五 一〇八 | |
| 古代宮城の制 | 丸山正彦 關根正直 | | 八 一四一 一四二 | |
| 國史修撰之事 | 關根正直 在文科大學 三上參次 | | 二 二二二 二二八 | |
| 雜報 | | | | |
| 御講書始 | | | | |
| 御遷座并御移轉 | | | | |
| 御歌會始 | | | | |
| 奈良離宮設置の建議 | | | | |
| 下田學監の演說 | | | | |
| 皇典講究所の演說 | | | | |
| 伊國の源語學者 | | | | |
| 萬葉集辨證 | | | | |
| 明治會叢誌并愛育の友 | | | | |
| 大同團及大日本護國會 | | | | |
| 政教社祝宴 | | | | |
| 寄書 | | | | |
| 井上毅君の演說筆記を讀て其說を賛成す | 文科大學教授 内藤耻叟 | | 二 二八〇 二八五 | |
| 和歌 | 文科大學教授 東寧漁夫 (在文科大學) | | 三 三五〇 三五八 | |
| 文苑 | 佐藤定介 落合直文 小中村義象 丸山正彦 松本愛重 | | 四 四二〇 | 歌五首 |
| 海邊千鳥 | | | | |
| 春風來海上 | | | | |
| 鹿嶋神宮に詣て | | | | |
| 詠史 | | | | |
| 披書知昔 | | | | |
| 附録 | | | | |
| 神武天皇紀講義筆記 | 故 久保季茲 | | 附七 七一〇 | |

| | | | | | | | | | | | | |
|----|----------------------------------|---|--|---|--|---|----|----------------------------------|---------------------------------------|---|--------------------|---------------------------------------|
| 第九 | <p>明治二十二年四月二十四日印刷 二十五日出版</p> | <p>寄書 文學鎖談 雜錄 勤王家の魁 發行兼編輯人 千葉縣平民 飯島誠 小石川區小日向武島町十七番地</p> | <p>日本文學 刑法(承前) 續紀表文近肖古論 日本言語研究法 古代の教育制度 松平式部官の別業の記 書學館の記 霞隔遠樹 閑居花 寄氏祝 伊勢神宮に詣てける時 薄暮遠望 雜報 御陵發見 帝國大學獨立案 授業料の復古 川田博士の寶物取調に就きての所見 古文書の獻納 佛教書類の蒐集 古物條例 憲法義解 筆の力 近刊雜誌 學藝の府 政治論評 寄書 武士道 雜錄 奉佛家の最終手段</p> | <p>棚谷祐善 奎堂散史 印刷人 東京府平民 澁谷吉彌 麴町區飯田町五丁目八番地 木村正辭 落合直澄 文學士 上田萬年 萩野由之 舞舍主人正風 文科大學教授 物集高見 渡邊恂 矢島久臣 谷勤 田島春園 鎌田正夫</p> | <p>發行兼編輯人 千葉縣平民 飯島誠 小石川區小日向武島町十七番地</p> | <p>三三〇三三八 三八〇四〇 發行所 日本文學發行 所 麴町區飯田町 五丁目八番地 大賣捌所 敬業社 東京府神田區裏神保町一番地</p> | 第十 | <p>明治二十二年五月二十四日印刷 二十五日出版</p> | <p>日本文學 拜禮 細川議官の「考古日本」を讀む</p> | <p>文學博士 小中村清矩 文科大學教授 内藤耻叟</p> | <p>一〇五 五〇九</p> | <p>大賣捌所 敬業社 東京府神田區裏神保町一番地</p> |
|----|----------------------------------|---|--|---|--|---|----|----------------------------------|---------------------------------------|---|--------------------|---------------------------------------|

第十二
 明治二十二年七月二十四日印刷
 二十五日出版

發行兼編輯人
 千葉縣平民
 飯島誠
 小石川區小日向武島町十七番地

印刷人
 東京府平民
 澁谷吉彌
 麹町區飯田町五丁目八番地

發行所
 日本文學發行
 所
 麹町區飯田町
 五丁目八番地

大賣捌所
 敬業社
 東京府神田區裏神保町一番地

日本文學
 日本文學史緒論(承前)
 三上參次
 履霜散人
 落合直文
 黑川眞道
 小杉樞郎

文學士
 一〇五
 五〇一四
 一四〇一九
 一九〇二六
 二六〇二七

日本文學に就きて
 帝國文科大學に新に國史料を設置せられ
 たるにつきて
 日本道路の制
 大鏡を讀む
 懸賞歌
 天 外國へ行く人をおくる
 地 和氣清麿
 人 新樹
 三才外秀歌
 新樹

鹿兒島新照院通町
 鈴木基資
 常陸鹿島町寄留大分縣士族
 今澤國見
 名古屋南小川町
 佐々木徳太郎
 常陸
 中村貞幹
 高知
 野々口正令
 京都
 岩崎慎行
 常陸
 大谷秀實
 伊勢
 二宮巖櫃
 東京
 常保
 遠江
 岡部哲
 高知
 嶋村雅規
 函館
 三橋和多郎

和氣清麿
 二七〇二八
 本居豐頼大人
 黒川眞頼大人
 鈴木重嶺大人
 撰

外國へ行く人をおくる
 二八〇三二
 雜報
 學科新設改稱及同課程改正
 專脩學術の利用
 小楠公の事
 楠正成廿一代の後胤
 古來美術の沿革取調
 汽車の客室に日本歴史畫の額を掲ぐべし
 寄書
 語學論(承前)
 雜錄
 賢聖障子
 寄贈書目(承前)

横尾謙
 三三〇三七
 内藤耻叟
 三七〇四〇
 四〇

寄贈書目(承前)

第十三
 明治二十二年八月二十四日印刷
 二十五日出版

| | | | |
|--|--|--------------------------------|------------------------------|
| 編輯人 新潟縣士族 島山健 麹町區飯田町五丁目八番地 | 發行兼印刷人 群馬縣平民 高山昇 麹町區飯田町五丁目三十番地 | 發行所 日本文學發行所 麹町區飯田町五丁目八番地 | 大賣捌所 敬業社 東京府神田區裏神保町一番地 |
| 日本文學の一週年を祝す | 文學士 三上參次 | 一〇五 | |
| 日本文學 | 文科大學教授 内藤耻叟 | 五〇八 | |
| 歴史の讀法 | | | |
| 文章學に就きての講話(承前) | 文科大學教授 物集高見 | 八〇一 | |
| 日本道路の制(承前) | 黒川眞道 | 一一〇七 | |
| 國體私論(接第六) | 丸山正彦 | 一一二七 | |
| 二荒日記 | 文科大學教授博士 小中村清矩 | 二七〇三二 | |
| 新樹 懸賞和歌三才外の秀歌 | 東京 伊豆 田邊すて子 莊原正平 陸前 藤澤恭 東京 高島くら子 東京 小川辨子 上野 狩野利房 東京 河原田盛昌 東京 平井元滿 | 三二二 | 和歌八首 |
| 雜報 天智天皇の御陵兆域 編年史料調査 皇典講究所の講義會 日本主義の大學 大和國民總代 古器什物写真 江戸開市の三百年祭 國光 寄書 | | 三二一三七 | |
| 日本文學ノ記者ニ寄ス | (在文科大學) 東寧漁夫 | 三七〇四〇 | |
| 雜錄 小田清雄見聞隨記 南殿の橋 奇の字 | 小田清雄 | 四〇 | |
| 附録 日本文學第一より第二迄第一卷目錄 | | 附一〇六 | |

| | | | | |
|--|--|---|---|---------------------------------------|
| <p>第十四 明治二十二年九月二十九日印刷 三十日出版</p> | <p>編輯人 新潟縣士族 畠山健 麹町區飯田町五丁目八番地</p> | <p>發行兼印刷人 群馬縣平民 高山昇 麹町區飯田町五丁目三十番地</p> | <p>發行所 日本文學發行 所 麹町區飯田町 五丁目八番地</p> | <p>大賣捌所 敬業社 東京府神田區裏神保町一番地</p> |
| <p>第十五 明治二十二年十月二十四日印刷 二十五日出版</p> | <p>編輯人 新潟縣士族 畠山健 麹町區飯田町五丁目八番地</p> | <p>發行兼印刷人 群馬縣平民 高山昇 麹町區飯田町五丁目三十番地</p> | <p>發行所 日本文學發行 所 麹町區飯田町 五丁目八番地</p> | <p>大賣捌所 敬業社 東京府神田區裏神保町一番地</p> |
| <p>日本文學 立太子の禮典 國學將來の目的 道德の事につきて ジェスイト宗派。即 天文年中に渡來せし耶蘇教の性質 國文を盛にすべし</p> | <p>小中村義象 文科大學教授博士 小中村清矩 文科大學教授 物集高見 文學士 三上參次 文學士 高津敏三郎</p> | <p>一〇三 三〇一三 一三〇一八 一九〇二六 二六〇三〇</p> | | |
| <p>尋常師範學校の漢文科を廢すべし 何をか文學といふ 外交と國權との歴史的觀察 桂離宮建置考 雜報 立太子式 圖書館の變更 第一高等中學の國文科 大日本史 陸軍小歴史及山林沿革史 山室山神社 國家主義の一雜誌將に世に顯はれんとす 井上哲次郎氏の日本學 京都の日本學會 日本書紀通釋 寄書</p> | <p>文科大學教授博士 小中村清矩 文科大學教授 物集高見 文學士 有賀長雄 文學士 上田萬年 文學士 高津敏三郎 小中村義象 横井時冬</p> | <p>一六〇一八 一八〇二〇 二〇〇二七 二七〇三二</p> | | |
| <p>文話 雜錄 菅田の關の舊地</p> | <p>文學博士 川田剛 麹山老人</p> | <p>三九〇四一 四一〇四二</p> | | |

| | | | | | | | | |
|------------------------------|-----------|---------------------------|--|--|--|---|-------|--|
| | | 第十六 | | | | | | |
| | | 明治二十二年十一月二十四日印刷 二十五日出版 | | | | | | |
| 懸賞和歌三才外の秀歌(承前) 和氣清麿 | 外國へ行く人を送る | 新樹 | 雜報 帝室の旗章 東方語學者會議 史學會 國文國史熱心家の會合 天長節の歌 在伯林某氏の書翰 國體發輝 神宮祭神提要 寄書 東北ノ古代 長歌改良論を讀みて 雜錄 美奈度に用うる文字の説 田口卯吉氏の蕃別調 | 編輯人 新潟縣士族 島山健 麹町區飯田町五丁目八番地 | 日本文學 國文學を修むる順序 皇族衰へて權臣肆なり 天文以後の耶蘇教 國文を盛にすべし(承前) 東西洋の辨 立皇太子式の賀表を讀む 今日の批評家 寄書 文話(承前) 雜報 立皇太子の御事ども | 長崎 坂本秋稻 前橋 宇多琢磨 鹿兒嶋 關山金滿 東京 久保母比子 河原田盛昌 越后 阿部克子 | 三〇〇三二 | |
| 大賣捌所 敬業社 東京府神田區裏神保町一番地 | | | 耽古迂生 石丸忠胤 山下重民 萩野由之 發行兼印刷人 群馬縣平民 高山昇 麹町區飯田町五丁目三十番地 | 文科大學教授博士 小中村清矩 内藤耻叟 文學士 三上參次 文學士 高津敏三郎 大關克 落合直文 佐藤定介 文學博士 川田剛 | 三五〇三九 三九〇四〇 四〇〇四二 四二 發行所 日本文學發行 所 麹町區飯田町 五丁目八番地 | 三一〇三五 | | |
| | | | | 一〇八 八〇一 一一一七 一七〇二二 二二〇二六 一六〇三二 三三〇三六 三六〇三八 | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|--|---------------------|--|------------|---|---------------------------------------|---|
| <p>第十八</p> <p>明治二十三年一月二十四日印刷 二十五日出版</p> | <p>編輯人 新潟縣士族 島山健 麹町區飯田町五丁目八番地</p> <p>日本文學</p> <p>大賣令の法理</p> | <p>神宮式年御遷宮 國文學振興に付きての會議 歌御會始御題 内藤大學教授の演說 釋典 佐久良東雄學士の遺書 小學校令の改正 美術社界の汚辱 駁邪鐵槌</p> | <p>第十七</p> <p>明治二十二年十二月二十四日印刷 二十五日出版</p> <p>編輯人 新潟縣士族 島山健 麹町區飯田町五丁目八番地</p> <p>日本文學</p> <p>藤原氏專權前後の創例 雅俗文辨 現今用る所の文字に就て 支那史を讀みて所感を記す 車輿の制度 雜報 學習院學制編製 教育會に於けるアルノルド氏の演說 萬國東洋學會 國文會 國文會 國文會 帝國大學出版の史徵墨寶 播磨の濱づと 寄書</p> <p>雅調論 東北ノ古代(第一五ノ續) 雜錄 古事記ノ序の句讀の事 故菅沼貞風君傳 塙國右衛門の逸事</p> | <p>文學士 有賀長雄</p> | <p>山下重民 發行兼印刷人 群馬縣平民 高山昇 麹町區飯田町五丁目三十番地</p> | <p>一〇一</p> | <p>發行所 日本文學發行 所 麹町區飯田町 五丁目八番地</p> | <p>大賣捌所 敬業社 東京府神田區裏神保町一番地</p> | <p>四一四 發行所 日本文學發行 所 麹町區飯田町 五丁目八番地</p> <p>大賣捌所 敬業社 東京府神田區裏神保町一番地</p> |
|---|---|---|--|---------------------|--|------------|---|---------------------------------------|---|

| | | | | | |
|-------------------------------------|---|--|------------------------------|--|--|
| | | 第二十 明治二十三年三月三十日印刷 同日出版 | | | |
| 日本國ノ長所豈ニ繪畫彫刻ノミナランヤ 雜録 | 法學士 清水市太郎 | 三一〜三九 | | | |
| 秋夜長物語 識者の卓見 | 和泉國堺 小田清雄 | 三九〜四〇 | | | |
| 古事記序文句讀の贅言 | 青柳高鞆 | 四〇 | | | |
| 編輯人 新潟縣士族 島山健 麹町區飯田町五丁目八番地 | 發行兼印刷人 群馬縣平民 高山昇 麹町區飯田町五丁目三十番地 | 發行所 日本文學發行 所 麹町區飯田町 五丁目八番地 | 大賣捌所 敬業社 東京府神田區裏神保町一番地 | | |
| 日本文學 | | | | | |
| 皇典學上の攷究を要する事業及其攷究法 | 文學士 有賀長雄 | 一〜七 | 法制論纂續編(第一) | | |
| 得レ賢之方學校爲レ本 | 文科大學教授 内藤耻叟 | 七〜一〇 | | | |
| 古書亡佚の原因 | 村岡良弼 | 一〇〜一三 | | | |
| 車輿の制度(輿の部) | 關根正直 | 一三〜二二 | | | |
| 海運通考 | 萩野由之 | 二二〜二七 | | | |
| 雜報 | | | | | |
| 陛下の御審判 | | | | | |
| 東宮殿下 | | | | | |
| 帝室圖書目錄 | | | | | |
| 文部大臣の德育主義 | | | | | |
| 古事類苑の取調 | | | | | |
| ボアソナード文庫 | | | | | |
| 美術品意匠の保護 | | | | | |
| 英國の東洋語學校 | | | | | |
| ゆにてりあん | | | | | |
| 寄書 | | | | | |
| 續語學論 | 横尾謙 | 三三〜四〇 | | | |
| 雜録 | | | | | |
| 大演習に就て思ふ事を | 丸山正彦 | 四〇〜四二 | | | |
| 一文一第四卷第五號阿部氏の熊襲人種考 | 雜録子 | 四二〜四三 | | | |
| 小田清雄見聞隨記 | 小田清雄 | 四三〜四四 | | | |
| 古の假字づかひを考へいでたるは、權少 | | | | | |
| 僧都成俊よりはじめれり | | | | | |

『國文學』 総目録

| 號 | 印刷・出版年月日 | 題名 | 著者 | 頁數 | 備考 |
|---|---------------------------------------|--|---|------------------------------------|---|
| 第二十一 | 明治二十三年四月二十九日印刷 同日出版 | 編輯者兼發行者 麹町區飯田町五丁目二十六番地 飯嶋誠 | 印刷者 同(麹町區飯田町 五丁目二十六番地) 近藤圭造 | 發行所 麹町區飯田町五 丁目二十六番地 國文學會 | 大賣捌所 東京神田區裏神保町一番地 敬業社 同乘物町三番地 吉岡哲太郎 同南神保町 博弘堂 |
| 第二十二 | 明治二十三年五月二十二日印刷 同日出版 | 編輯者兼發行者 麹町區飯田町五丁目二十六番地 飯嶋誠 | 印刷者 同(麹町區飯田町 五丁目二十六番地) 近藤圭造 | 發行所 麹町區飯田町五 丁目二十六番地 國文學會 | 大賣捌所 東京神田區裏神保町一番地 敬業社 同乘物町三番地 吉岡哲太郎 同南神保町 博弘堂 |
| 論說 | 國文學の意義を辨じて小中村博士に答ふ | 國文學 改良を披露し併せて國文學の主義を明かにす 論說 | 文學士 高津鐵三郎 | 一〇六 | 三上參次が執筆か 『明治時代の歴史学界』 |
| 文學の目的 | 短歌を排斥して長歌を振起すべし | 熊襲人種考 徳川五代將軍 雜録 | 和田萬吉 佐藤定介 丸山正彦 | 六一 一一〇 二〇五 二五九 | |
| 國文學現今の景況及勢力 | あやめ物語 海邊春夕 雨中蛙 つはめをよめる 躑躅 | 山靜如太古 國文學史教授に就き特に地方教育家に三 大學校を紹介す 獨學而無友、則孤陋而寡聞 特別寄書 | 落合直文 和田御崎 小出榮 黒川眞頼 植松有園 狩野利房 三輪義方 | 二九三 三五四 四二 四二 四二 四二 | 和歌五首 |
| 作者述者ノ辨 | 諸君に質す | 雜報 | 文學博士 川田剛 文學博士 小中村清矩 | 四五 四一 四一 四一 | |
| 國文學校及日本法律學校 二法典の發布 外字新聞の不敬 國文學史講義録 扶桑の花 | 國文學の意義を辨じて小中村博士に答ふ | 國文學の意義を辨じて小中村博士に答ふ | 文學博士 川田剛 文學博士 小中村清矩 | 四一 四一 四一 四一 | |

| | | | |
|----------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------|--|
| | | 第二十三 | |
| | | 明治二十三年六月二十五日印刷 同日出版 | |
| 上古史研究の方針 | 文學士 三上參次 | 五〇 | 國文論纂(第二十四) |
| 字音 | 萩野由之 | 一〇〇 | |
| 源實朝論 | 小中村義家 | 一五〇 | |
| 徳川五代將軍(承前) | 丸山正彦 | 二二〇 | |
| 特別寄書 | | 二二七 | |
| 外交通論(二) | 木村正辭 | 二八〇 | |
| 今昔物語一斑 | 文學士 有賀長雄 | 三六〇 | |
| 雜録 | | 四一 | |
| 芭蕉翁の略傳及遺狀附瓢銘 | 小永井解太郎 | 四一〇 | |
| 竹亭夏來 | 久米幹文 | 四一五 | |
| 卯花 | 同 | 四二〇 | |
| 新樹風 | 同 | 四二五 | |
| 輕氣球 | 落合直文 | 四三〇 | |
| 我邦文學の一特性 | 今是生 投 | 四三六 | 和歌三首 |
| 雜報 | | 四四一 | |
| 御還幸 | | 四四六 | |
| 東洋語學校の隆盛 | | 四五〇 | |
| 文學世界の自滅論者 | | 四五五 | |
| 東京文章專修會 | | 四六〇 | |
| 日本法律學校科外講義 | | 四六五 | |
| 國文學に關する新刊書 | | 四七〇 | |
| ・日本文學全書 | | 四七五 | |
| ・關根正直氏の小説史稿 | | 四八〇 | |
| ・芳賀矢一、立花銚三郎両氏の國文學讀本 | | 四八五 | |
| 編輯者兼發行者 趣町區飯田町五丁目二十六番地 飯島誠 | 印刷者 同(趣町區飯田町 五丁目二十六番地) 近藤圭造 | 發行所 趣町區飯田町五 丁目二十六番地 國文學會 | 大賣捌所 東京神田區裏神保町一番地 敬業社 同乗物町三番地 吉岡哲太郎 南神保町 博弘堂 南傳馬町 吉川半七 |
| 國文學を普通教育の基礎たらしむべき事に就きて | | 一〇六 | |
| 論說 | | | |
| 字音(承前) | 萩野由之 | 六〇 | 國文論纂(第二十四) |
| 國語攻究上羅馬字の要用を論ず | 芳賀矢一 | 一二〇 | |
| 與天地之初 君臨之國 | 内藤耻叟 | 一八〇 | |
| 特別寄書 | | 二二〇 | |
| 上古の田制に廿千代と云ひ五十万代と云ふ等の數へ方は印度の法なる考 | 栗田寛 | 二六〇 | |
| 卑彌呼非神功皇后考證 | 飯田武郷 | 二九〇 | |
| 今昔物語一斑(承前) | 文學士 有賀長雄 | 三六〇 | |
| 雜録 | | 四一 | |

第二十四

明治二十三年七月二十五日印刷
同日出版

| | | | |
|--------------------|-----------|---------|------------------------|
| 宋の代の物語 | 文藝博士 | 四三〇四七 | |
| 山家のほととぎす | 黒川眞頼 | | |
| 海邊梅雨 | 黒田清綱 | | |
| 護良親王 | 小出繁 | 四七 | |
| 書を賣りて貧民を救ふ | 權田直助 故人 | 四七〇四九 | |
| チャンバラン氏の新著 | 龍江生 | 四九〇五一 | |
| 雜報 | | | |
| 學會の徳義に聞ふ | | | |
| 本居宣長翁の文には板權あり | | | |
| 外國政府文學者を優待す | | | |
| 教育報知の小説論 | | | |
| 文科大學内に國文の學會起らんとす | | | |
| 川田重野兩博士の演説 | | | |
| 徒然草の流行 | | | |
| 學問の獨立 | | | |
| 農科大學 | | | |
| 松岡明義君逝く | | | |
| 編輯者兼發行者 | 印刷者 | 發行所 | 大賣捌所 |
| 麹町區飯田町五丁目二十六番地 | 同(麹町區飯田町 | 麹町區飯田町五 | 東京神田區裏神保町一番地 |
| 飯島誠 | 五丁目二十六番地) | 丁目二十六番地 | 敬業社 |
| | 近藤圭造 | 國文學會 | 同乗物町三番地 |
| 國文學 | | | 吉岡書籍店 |
| 國文學の研究は決して新奇の事に非ず | | | 南神保町 |
| 論說 | | | 博弘堂 |
| 「國光」に掲ぐる國文學の興起につきて | エンケイシイ | 七〇一〇 | 南傳馬町 |
| と云ふ論を讀みて | | | 吉川半七 |
| 伊勢物語は詞花言葉のみを事とせざる説 | 佐藤定介 | 一〇〇二〇 | |
| 日本の法文と文學との關係 | 文學士 | 二〇〇二五 | |
| 特別寄書 | 高津鋏三郎 | | |
| 栗田寛氏上代田制の數へ方の考案につき | 文學博士 | 二五〇二八 | |
| ての答 | 南條文雄 | | |
| 長慶帝議原由記 | 水戸 | 二八〇三七 | |
| 栗田寛 | 栗田寛 | | |
| 雜録 | | | |
| 蜂須賀侯爵の園遊會に陪侍する記 | 小杉樞郎 | 三七〇四〇 | |
| 夕雲 | 久我建通 | | |
| 今市の驛なる或茶店に立よりけるにさい | 高崎正風 | | |
| つ年母君のいこひ給ひしも此所なりきと | | | |
| 從者の語り出るに(二首) | | | |
| なほゆく(二首) | | | |
| 鹽原にて | | | |
| 衣 | | | |
| 蓮 | 御巫清直 | | |
| 解頤談 | 狩野利房 | | |
| 文學を慕うて外國に歸化す | 今是生 | 四一〇四四 | (三上會員が國語傳習所にてなせる演説の節略) |
| | 三上參次 | 四四〇四七 | |

| | | | | | | |
|---|--|--|----------------------------------|--|-------------------------------|--|
| | | 第二十五 | | 明治二十三年八月二十五日印刷 同日出版 | | |
| 帝國會議員の國文學思想 | 雜報 | 國學院いよ／＼設立せらるる 學習院の教科大に面目を改む(附其評) ハウスクネヒト氏の教育意見 百年以前なる本居宣長翁の文には板權あり(承前) 誹諧の流行 東京専門學校の英語文學科 投書 和田萬吉君の短歌を排斥して長歌を振起すへしといへるをよみて聊思ふ事を | 編輯者兼發行者 麹町區飯田町五丁目二十六番地 飯島誠 | 印刷者 同(麹町區飯田町五丁目二十六番地) 近藤圭造 | 發行所 麹町區飯田町五丁目二十六番地 國文學會 | 大賣捌所 東京神田區裏神保町一番地 敬業社 同(麹町區) 乗物町三番地 吉岡書籍店 南神保町 博弘堂 南傳馬町 吉川半七 |
| 國文學 | 再び國文學の意義を解釋して一新聞一雜誌の妄を辨ず 日本の法文と文學との關係(承前) 「國光」に掲ぐる國文學の興起に就てと云ふ論を讀みて(承前) 論說 徳川幕府の出版條例及び其判決例 俳文を論ず 特別寄書 辨飯田氏卑彌呼非神功皇后考證 長慶帝議原由記(承前) 雜錄 蜂須賀侯爵の園遊會に陪する記(承前) 懷古のころを琵琶行になすらへてよめる 長歌 螢火秋近 河上秋風 残月越關 鳥居元忠遺書 雜報 | 文學士 高津敏三郎 エン、ケ、シー | 岡田正之 芳賀矢一 木村正辭 栗田寛 | 一〇六 六〇二二 一一〇一六 一六〇二四 二四〇二八 二八〇三七 三七〇四五 四五〇四九 四九〇五〇 | | |
| 國民の友の夏期附録に就きて 勝伯爵の活歴史 博覽會に於ける歴史畫 歐米に於ける日本の文學 廣く歌人の傳を求む 芭蕉翁の傳成らんとす 龍溪居士の歌話 | 内藤碧海 | 五〇〇五五 | 五五〇六二 | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|--|---|---|---|---|--|--|---|---|
| <p>第二十六</p> <p>明治二十三年九月二十五日印刷 同日出版</p> | <p>第二十七</p> <p>明治二十三年十月二十五日印刷 同日出版</p> | <p>編輯者兼發行者 麹町區飯田町五丁目二十六番地 飯島誠</p> | <p>國文學 道徳史編纂の必要 論説 日本の法文と文學との關係(承前) 古今集序和漢兩文の比較 横山政和君の駁論を讀んで益短歌を排斥して長歌を振起すべき所以を覺る 國文學思想と海防器と 特別寄書 長慶帝議原由記(承前) 今の世の假字遣といふものは正理あるものにあらざ 雜録 觀能記 見聞隨記(國語の沿革) 車輿の制度(乗物駕籠) 雜報 國學院 英人の眼中に日本なし 文學上の近事 會員上田氏の洋行 會員小中村落合兩氏の旅行 日本小辭典 豈盛ならずや 文屋康秀と定家卿と 日本に關する外人の著書 小説の懸賞一千磅 「眞理」に申す</p> | <p>印刷者 同(麹町區飯田町五丁目二十六番地) 近藤圭造</p> | <p>印刷者 同(麹町區飯田町五丁目二十六番地) 近藤圭造</p> | <p>發行所 麹町區飯田町五丁目二十六番地 國文學會</p> | <p>發行所 麹町區飯田町五丁目二十六番地 國文學會</p> | <p>大賣捌所 東京神田區裏神保町一番地 敬業社 同(麹町區) 乗物町三番地 吉岡書籍店 南神保町 博弘堂 南傳馬町 吉川半七</p> | <p>大賣捌所 東京神田區裏神保町一番地 敬業社 同(麹町區) 乗物町三番地 吉岡書籍店 南神保町 博弘堂 南傳馬町 吉川半七</p> |
| | | <p>國文學 再び國文學の興隆は流行によりて然るにあらざるを論ず</p> | | | | <p>一〇五</p> | <p>一〇五</p> | | |

| | | | |
|----------------------|---|---|-------------------------------|
| 第二十八 | | 明治二十三年十一月二十五日印刷 同日出版 | |
| 論文 | 源平盛衰記と太平記と 國學院設立につきて 大日本史に蝦夷琉球を外國傳中に載せたる辨 | 芳賀矢一 落合直文 荊城逸史 | 六〇一 一一〇一四 一四〇一七 |
| 特別寄書 | 長慶帝議原由記(承前) 文學概論 | 栗田寛 岡倉由三郎 | 一八〇二六 二六〇三二 |
| 雜録 | くすしきくすし 梶川與三兵衛の日記 | 芒舎主人 小中村義象 | 三二〇三五 三五〇三六 |
| 詠史(今様風) | 勇士 | 本居豊穎 | 三六〇三七 |
| 無同字歌の事 | 豊太閣書翰 | 久保惠隣 栗田寛 | 三七〇三八 三九〇四四 |
| 雜報 | スタイン翁の逝去 勅撰議員中の博士 皇室大に美術を奨励し給ふ 小學校令の發布に就きて 日本歴史の名著 國史眼 日本文學史出づ 歐洲に於ける東洋語學 小中村博士の學規私言に付きて | 四五〇五〇 | |
| 投書 | 和田文學士の詠歌の再論をよみて 雅調餘論 | 横山政和 福住まさえ | 五一〇五三 五四〇五五 |
| 國文學 | 編輯者兼發行者 麹町區飯田町五丁目二十六番地 飯島誠 | 印刷者 同(麹町區飯田町五丁目二十六番地) 近藤圭造 | 發行所 麹町區飯田町五丁目二十六番地 國文學會 |
| 聖勅を拜讀して微衷を述べ | 論說 | 秋聲主人 | 一〇五 |
| 日本の婦人に及ぼせる儒佛二教の影響の一斑 | 如何にして國文學の進歩を計るべきか | 文學士 高津敏三郎 | 五〇九 九〇一六 |
| 横山政和君に申す | 文學復興の時期 | 文學士 和田萬吉 | 一六〇一七 |
| サミュエル・リチャードソンの傳 | 特別寄書 | 芳賀矢一 岡倉由三郎 | 一七〇二一 二一〇二四 |
| | | 大賣捌所 東京神田區裏神保町一番地 敬業社 同(麹町區)乗物町三番地 吉岡書籍店 南神保町 博弘堂 南傳馬町 吉川半七 | 本文には著者名なし 三首 一首 |

| | | | | |
|---|--|---|--|---|
| <p>第二十九 明治二十三年十二月二十五日印刷 同日出版</p> | <p>編輯者兼發行者 麹町區飯田町五丁目二十六番地 飯島誠</p> | <p>印刷者 同(麹町區飯田町五丁目二十六番地) 近藤圭造</p> | <p>發行所 麹町區飯田町五丁目二十六番地 國文學會</p> | <p>大賣捌所 東京神田區裏神保町一番地 敬業社 同(麹町區) 乗物町三番地 吉岡書籍店 南神保町 博弘堂 南傳馬町 吉川半七</p> |
| <p>國文學</p> | <p>明治廿三年に於ける國文學の形勢を論じ 併せて將來の希望を陳ぶ 論說</p> | <p>谷干城</p> | <p>一〇六</p> | |
| <p>國學院開院式場にて 附谷秦山三宅尚齋往復手簡(享保戊戌正月四日) 徳川幕府の出版條例及び其判決例(第二十五號續) 特別寄書 大日本史假名紀傳草案(紀闕) 雜錄 泣男杉本左兵衛逸事 尾張の國なる舊城ども(名古屋犬山)に のぼる記事 柿本人麿に正一位を贈り給ひしこと</p> | <p>國學院の狀況 帝國大學の勅任教授 著述者の迷惑 文學世界の近事一二</p> | <p>井上賴文 讀人知らず(二首)</p> | <p>四一〇四三</p> | <p>和歌(短歌) 十二首</p> |
| <p>本朝學校の由來 雜錄 豐太閤書翰(承前) よしなしごと 公家塚(謠曲) 常陸國岩間野にて演習行はせ給ひけるみ ともにて 月前風 全 深夜月 暁天月 寄露迷懷 馬上聞鷹 朝落葉 月照上人の遠悼會に寄海懷舊を 國學院の開院式をほきて</p> | <p>小永井解太郎</p> | <p>二四〇二八</p> | <p>栗田寛 今是生 伊藤泰藏 高崎正風 黒川眞頼 小出榮 税所敦子 園祥子 小池道子 坂正臣 植松有經 坂正臣</p> | <p>二八〇三二 三三〇三七 三七〇三九</p> |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|------------------------|--|--|--|---------------------------------------|--|---|--|----------------------------------|--|--|--|---|--|----------------|--|--------------------------------|--|--|--|----------------------------------|--|--|--|--|--|-----------------------|--|
| 第二編 第一 | | 明治二十四年二月二十五日印刷 同日出版 | | 待春 同梅 探梅 炭竈烟 寒松 待空戀 新年祝世 社頭祈世 都新年 契沖阿闍梨 | | 新作唱歌 人のもとめによりてつくられる唱歌 同海軍といふ題にて | | 東京圖書館に於ける皇典講究所講演の位置 時期いまだ到らぬなり 明治會の大演説 近時文學の氣運 青年文學者の大膽 日本語學一斑 落合直澄君の死去 國學院 獨逸古典學者の逝去 | | 編輯者兼發行者 麹町區飯田町五丁目二十六番地 飯島誠 | | 國文學 耶穌教徒が教育の勸語に就て懐ける感想 國文を一定することに就いて 明治の小説に勸懲主義を注入したし 特別寄書 左任右任の説 漢字を一日も早く我普通文より毘ぎ出さざるべからず 雜録 紀元節 國歌の「アリテレーション」 釋契沖小傳 送眞幸大人遊三江戸ニ文 | | 黒川眞頼 本居豐頼 小中村清矩 御巫清直 同鈴木重頼 鈴木重頼 小田清雄 宇井可道 安部井磐根 本居豐頼 | | 五二〇五四 和歌十六首 | | 五五〇五五 「人のもとめによりてつくられる唱歌」とあり | | 賣捌所 東京神田區裏神保町一番地 敬業社 同(麹町區)乗物町三番地 吉岡書籍店 南神保町 博弘堂 南傳馬町 吉川半七 | | 印刷者 同(麹町區飯田町五丁目二十六番地) 近藤圭造 | | 文學士 高津鐵三郎 文學士 和田萬吉 栗田寛 文學士 坪井九馬三 落合直文 は、や、 今泉定介 故人 高本順 | | 一〇六 六〇二一 一一二一六 一六〇一九 一九〇二三 二二五二二五 二二五二二七 二七〇三〇 三〇〇三四 | | 前書き・三上參次 前書き・小中村義象 | |
|-----------|--|------------------------|--|--|--|---------------------------------------|--|---|--|----------------------------------|--|--|--|---|--|----------------|--|--------------------------------|--|--|--|----------------------------------|--|--|--|--|--|-----------------------|--|

| | | | | | |
|------------------------------|--------------|------------------------|--|----------------------------------|---|
| 第二編 第一 | | 明治二十四年三月二十五日印刷 同日出版 | | | |
| 國體論 | 飯田武郷 | 三四〇三五 | | 編輯者兼發行者 齋町區飯田町五丁目二十六番地 飯島誠 | 國學院大學図書館所藏「國文學」には目録にのみ記載 國學院大學図書館所藏「國文學」には目録にのみ記載 |
| 窓前梅 | | | | 印刷者 同(齋町區飯田町五丁目二十六番地) 近藤圭造 | 賣捌所 東京神田區裏神保町一番地 敬業社 同(齋町區) 乗物町三番地 吉岡書籍店 南神保町 博弘堂 南傳馬町 吉川半七 |
| 春雨 | | | | | |
| 松色映水 | | | | | |
| 亂世如盛 | | | | | |
| 折にふれたる | | | | | |
| 富士 | | | | | |
| 月前梅 | 久保惠隣 | 三五 | | | |
| 行路梅 | 青戸波江 | | | | |
| 清少納言 | 井上頼文 | | | | |
| 雜報 | | | | | |
| 群盲評器 | | | | | |
| 近頃の快事一二 | | | | | |
| 野蠻なる文學騒ぎ | | | | | |
| 國學院にての元寇紀念物展觀 | | 三六〇三八 | | | |
| 國文國史講習所 | | | | | |
| 三條公の薨去 | | | | | |
| 實際の人物を何とかする | | | | | |
| 附録 | | | | | |
| 古事記講義 | 本居豐頼 講義 | 附一〇 | | | |
| 土佐日記講義 | 黒川眞頼 | | | | |
| 古文撰法 | 阪正臣 | | | | |
| 國文學 | | | | | |
| 國文學の研究に就て | | 一〇五 | | | |
| 論說 | | | | | |
| 讀古史通 | 内藤耻叟 | 五〇一〇 | | | |
| 日本の農工商業誌の編纂を熱望す | 濱田健次郎 | 一〇一五 | | | |
| 漢文と歐文との比較 | | 一五二〇 | | | |
| 特別寄書 | | | | | |
| 詩歌の三類 | 文學士 坪内雄藏 | 二〇二四 | | | |
| 漢字を一日も早く我普通文より毆き出さざるべからず(承前) | 文學士 坪井九馬三 | 二四二七 | | | |
| 雜録 | | | | | |
| 契沖阿闍梨小傳補遺 | 小杉楹郎 | 二七二九 | | | |
| 大倭國の倭の字を和と改められし時代 | 小田清雄 | 二九三一 | | | |
| 光格帝の聖學 劍西史話の一節 | 岡田正之 | 三一三二 | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|--------------------------------|---|---|--|--|-------------|-------------------------|---------------------------------------|-------------------|--|-----------------------|---|--------------|--------------|---------|--------------------------|---|-------------|--------------|---------|---|--|--------------|--------------|-------------|-----------------------------------|--|--------------|--------------|---------|
| <p>第二編 第三</p> | <p>明治二十四年四月二十五日印刷 同日出版</p> | <p>編輯者兼發行者 麹町區飯田町五丁目二十六番地 飯島誠</p> | <p>印刷者 同(麹町區飯田町五丁目二十六番地) 近藤圭造</p> | <p>發行所 麹町區飯田町五丁目二十六番地 國文學會</p> | <p>實捌所 東京神田區裏神保町一番地 敬業社 同(麹町區) 乗物町三番地 南神保町 博弘堂 南傳馬町 吉川半七</p> | <p>古文撰法</p> | <p>古事記講義 土佐日記講義</p> | <p>本居豊穎 文學博士 黒川眞頼 阪正臣</p> | <p>附一 二一〇</p> | <p>國學院大學図書館所藏『國文學』には目錄にのみ記載 國學院大學図書館所藏『國文學』には目錄にのみ記載</p> | <p>英國文學の現況 附録</p> | <p>國學院 ヴィクトル、ドイツキン氏の日本語論 史學者の舊事諮問會速記録 英國文學の現況</p> | <p>三六〇三八</p> | <p>三六〇三八</p> | <p></p> | <p>春雨 衣通媛 雜報</p> | <p>外國人と祭りと 國學院 グイクトル、ドイツキン氏の日本語論 史學者の舊事諮問會速記録 英國文學の現況</p> | <p>久米幹文</p> | <p>三五〇三六</p> | <p></p> | <p>夜春雨 水邊立春 梅香何方 朝鶯 野春風 隱士出山 某か追慕の會に夕春雨といふことを</p> | <p>久我建通 文學博士 小中村清矩 御巫清直 同 三橋和多郎 高崎正風 同</p> | <p>三四〇三五</p> | <p>三四〇三五</p> | <p>短歌七首</p> | <p>社頭祈世 御製 皇后宮 預撰</p> | <p>權掌侍從六位 藤原敦子 稻荷神社宮司正七位 近藤芳介 北野神社宮司從七位 田中尚房 皇太后宮屬 松波資之 奈良眞言院住職 藤村睿雲 愛知縣 森川頼次 鹿兒島縣 川畑梓</p> | <p>三三〇三四</p> | <p>三三〇三四</p> | <p></p> |
|-------------------|--------------------------------|---|---|--|--|-------------|-------------------------|---------------------------------------|-------------------|--|-----------------------|---|--------------|--------------|---------|--------------------------|---|-------------|--------------|---------|---|--|--------------|--------------|-------------|-----------------------------------|--|--------------|--------------|---------|

| | | | | | | |
|--|--|-----------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|-------|---|
| 第二編 第四 | | 明治二十四年五月二十五日印刷 同日出版 | | 國文學 日本歴史の性質を辯じて教育に従事する 人々に告ぐ | 一〇九 | |
| | | 論説 文典編纂者に望 | 芳賀矢一 | 九〇二 | | |
| 國文學 國文學教育 | | 國體一言 | 故 久保季茲 | 一二〇一六 | | 前書きに「左の一篇は、予が先考季茲の 草する所なりこの頃文匣中に得たれば貴 會に寄す 久保愚隣」 |
| | | 猿丸大夫の考 特別寄書 | 田中義成 | 一六〇二二 | | |
| 國文學者 の事業 | | 漢字を一日も早く我普通文より毆き出 さざるべからず(承前) | 文學士 坪井九馬三 | 一二〇二七 | | |
| | | 天子の稱号の事 | 坪井九馬三 | 二七〇二九 | | |
| 小説と賭博 徳川氏官制略 特別寄書 | | 雜録 | 内藤耻叟 | 二九〇三四 | | |
| | | 敷嶋の道 細川幽齋の美談 待鶯といふ題にて 美人獨坐圖 | 松廬主人 小杉楹邨 | 三四〇三五 三五 | | |
| 勤王家の贈位 編曆事業 全國教育聯合會 修史の事業 萬國東洋學會 古今似たる事 投書 | | 祝詞書かむ人々に質す | 國學院學生 三矢重松 | 三六〇三八 | | |
| | | 附録 古事記講義 土佐日記講義 | 本居豐穎 文學博士 黒川眞頼 | 三六〇三九 三九〇四〇 | | |
| 古文撰法 | | 編輯者兼發行者 麹町區飯田町五丁目二十六番地 飯島誠 | 印刷者 同(麹町區飯田町 五丁目二十六番地) 近藤圭造 | 發行所 麹町區飯田町五 丁目二十六番地 國文學會 | 附二〇三〇 | 賣捌所 東京神田區裏神保町一番地 敬業社 同(麹町區) 乗物町三番地 吉岡書籍店 南神保町 博弘堂 南傳馬町 吉川半七 |
| | | 文學士 坪井九馬三 | 一五〇二二 | | | |

第二編
第五

明治二十四年六月二十五日印刷
同日出版

| | | | |
|--|--------------------------------------|--------------------------------------|---|
| 國文と國家と | 文學士 棚橋一郎 | 二二〇二五 | |
| 雜錄 萬世一系の證明 | 杞憂生 | 二六〇二七 | |
| 正木太郎大夫の膽勇 | 芒の舎主人 | 二八〇三〇 | |
| 油繪の起原 | 和荃散史 | 三〇〇三一 | |
| 露國皇太子ニコラス殿下の遭難をうれた みてよめる | 伊豆 | 三二〇三三 | |
| 萩原正夫 | 飯嶋誠 | 三二〇三三 | |
| 久我建通 | 全 | | |
| 田家首夏 | 久我建通 | | |
| 人傳郭公 | 全 | | |
| 新捕 | 島山健 | | |
| 郭公をまつ | 全 | | |
| 樵路卯花 | 高崎正風 | 三三〇三五 | 和歌十一首 |
| 同 | 小出榮 | | |
| 海上雲 | 鎌田正夫 | | |
| 郭公の歌よみける中に | 植松有經 | | |
| 夕船 | 大口鯛二 | | |
| 投書 | 坂正臣 | | |
| 國學院學生三矢重松君に告ぐ | 陋偏老人 | 三五〇三六 | |
| 雜報 | | | |
| 著者を重んぜずして學者を重んぜよ 歎じて曰く良書賈無きを如何せん 讀史餘論拔萃訴訟の落着 著述者の安心 獨逸に留學せる日本人の名譽 當世徒然草の一話 | | 三六〇四〇 | |
| 附錄 | | | |
| 古事記講義 | 本居豐穎 | 附三一〇三四 | |
| 土佐日記講義 | 文學博士 黒川眞頼 | | |
| 古文撰法 | 阪正臣 | | |
| 編輯者兼發行者 麹町區飯田町五丁目二十六番地 飯島誠 | 印刷者 同(麹町區飯田町 五丁目二十六番地) 近藤圭造 | 發行所 同(麹町區飯田町五 丁目二十六番地) 國文學會 | 國學院大學圖書館所藏『國文學』には目 録にのみ記載 國學院大學圖書館所藏『國文學』には目 録にのみ記載 賣捌所 東京神田區裏神保町一番地 敬業社 同(麹町區) 乗物町三番地 吉岡書籍店 南神保町 博弘堂 |
| 國文學 禮式の制定に就きて | | 一〇四 | |
| 論說 院中の政遂に幕府專制の備を作りし事 | 内藤耻叟 | 四〇七 | |
| 日本語の眞の講究を興すべし | 岡倉由三郎 | 七〇一四 | |
| 國語會話の必要 | 佐藤寛 | 一四〇一八 | |
| 特別寄書 | | | |
| 漢字を一日も早く我普通文より毆き出 ささるべからず(承前) | 文學士 坪井九馬三 | 一八〇二六 | |
| 雜錄 | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------|--|--|----------------------------------|--|--|-------|-------|-------|--------|
| 第二編 第六 | | 明治二十四年七月二十五日印刷 同日出版 | | | | | | | |
| 國文學 | 編輯者兼發行者 麹町區飯田町五丁目二十六番地 飯島誠 | 印刷者 同(麹町區飯田町五丁目二十六番地) 近藤圭造 | 發行所 同(麹町區飯田町五丁目二十六番地) 國文學會 | 東京神田區裏神保町一番地 敬業社 同(麹町區) 乗物町三番地 吉岡書籍店 南神保町 博弘堂 | 國學院大學図書所藏『國文學』には目録にのみ記載 國學院大學図書所藏『國文學』には目録にのみ記載 | 和歌十七首 | 四二〇四四 | 四四〇四六 | 附三五〇四二 |
| 古文撰法 | 土佐日記講義 | 本居豐穎 文學博士 黒川眞頼 | 阪正臣 | | | | | | |
| 古文撰法 | 學問世界の一曉星失す 小中村文學博士之古稀壽筵 能く誠語を服膺せり 文壇の一笑柄 附録 | 小中村清矩 黒川眞頼 本居豐穎 鈴木重嶺 小出榮 藤本重義 塚原是將 樋渡清簾 雨宮樂平 | | | | | | | |
| 古文撰法 | 雜報 閑居友 詠史 紫式部 清世樂事間 蒸氣車 圍碁 寄花懷舊 闇夜蛙 | 久我建通 飯嶋誠 久米幹文 高崎正風 | | | | | | | |
| 古文撰法 | 加茂贈正四位の消息 搞檢校の史料 桂子の逸事 河邊郭公 尋郭公 螢照水草 池夏月 夏日陪内大臣正一位三條藤公靈前詠春後 思花歌 同題を詠して奉りし歌 寄扇祝 一日園におりたちけるに去年の秋よき苗とてとりよせうゑつる桑の廣葉さしたちさかえたるを見てよめる 或人のものしたる日本史のはしに | 松廬主人 堺市 小田清雄 劍西小史 小永井解太郎 | 二六〇二九 二九〇三五 三五〇四〇 四〇〇四一 | | | | | | |
| 國文學 | 古書の刊行に就きて | | 一〇五 | | | | | | |
| 論説 | | | | | | | | | |
| 言語學上國語の位置 | | | | | | | | | |
| 特別寄書 | | 芳賀矢一 | 五〇八 | | | | | | |

| | | | | | | |
|-----------|------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|---|--|
| 第二編 第七 | 明治二十四年八月二十五日印刷 同日出版 | 編輯者兼發行者 麹町區飯田町五丁目二十六番地 飯島誠 | 印刷者 同(麹町區飯田町五丁目二十六番地) 近藤圭造 | 發行所 同(麹町區飯田町五丁目二十六番地) 國文學會 | 賣捌所 東京神田區裏神保町一番地 敬業社 同(麹町區) 乗物町三番地 吉岡書籍店 南神保町 博弘堂 | <p>外交通論四 漢字を一日も早く我普通文より毆き出さざるべからず(承前)</p> <p>雜錄 麻機の池に蓮を見る記 憎蚊詞 見聞隨記 國文作例のひがこと 瑠檢校と毛晋と こゝろづくし(加藤立花往復の書簡) 文部大臣に授け賜ひし勅語を拜奉りて詠める長歌反歌 伊香保の東山樓にて ふたゝひ榛名神社にまうてける時たな曇りたる空のやうく みやしろのうしろにそひえたるをみすかた岩といへはかくよめるなりまた潮のあたりにて 連夜鶴川 夏夕 北畠准后 宇治若郎子 述懷(旋頭歌) 雜報</p> <p>賴山陽の贈位 「文苑」の發刊 文法時代 漢文學の再興 國文朗讀法 ラング氏の日本語文典 源親房卿も満足し玉ふらん 高等中學校の試験餘聞及國學院の概況 鎌倉懷古展覽會 國體演說會 附録 古事記講義 土佐日記講義 古文撰法 職原鈔講義</p> <p>木村正辭 文學士 坪井九馬三 中郎秋香 御巫清直 和泉堺 小田清雄 萩野由之 松廬主人 久宜 小中村清矩 高崎正風 植松有經 植松敦子 猿渡盛愛 本居豐穎</p> <p>九〇一六 一六〇二〇 一〇〇二二 一一〇二三 一三〇二四 一四〇二五 一五〇二八 二八〇二九</p> <p>和歌十首</p> <p>三〇〇三三三 附四三〇五〇 附一〇一〇</p> <p>國學院大學図書館所藏「國文學」には目録にのみ記載 國學院大學図書館所藏「國文學」には目録にのみ記載</p> |
|-----------|------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|---|--|

| | | | | | | | | | |
|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 第二編 第十一 | | 明治二十四年十二月二十五日印刷 同日出版 | | | | | | | |
| 多摩郡御嶽山紀行 門をつくる説 | 飯田武郷 中郷秋香 久我建通 高崎正風 | 一九〇二 二二〇四 | | | | | | | |
| 冬山 彰仁親王のみとも仕へて、愛知、岐阜あ たりの、なみにあへる所々めぐりける 折、事にふれてよめる歌とも、 わが大君の、大御恵のあつさを、到る所 の人々、よ々と泣きてかたじけなみよる こべるを見て、 笠松にて 十一月廿一日の夜こがらしといふ題を得 てわか國への事をおもひやりて | 坂正臣 | 二四 | 和歌五首 | | | | | | |
| 雜報 天長節祝賀式 附松野勇雄氏の演説 歌御會始御題 唱歌と音楽 震災地に於ての美談 白川樂翁公の壁書 | | 二五〇三〇 | | | | | | | |
| 附録 土佐日記講義 (完結) 古文撰法 (訳文の階梯) 職原鈔講義 | 文學博士 黒川眞頼 阪正臣 飯田武郷 | 附三三〇三六 | 國學院大學図書館所藏「國文學」には目録にのみ記載 國學院大學図書館所藏「國文學」には目録にのみ記載 | | | | | | |
| 編輯者兼發行者 麹町區飯田町五丁目二十六番地 飯島誠 | 印刷者 同(麹町區飯田町五丁目二十六番地) 近藤圭造 | 發行所 麹町區飯田町五丁目二十六番地 國文學會 | 大賣捌所 東京神田區裏神保町一番地 敬業社 同麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤活版所 同神田區南神保町 博弘堂 | | | | | | |
| 國文學 逝く歳を送るとして 特別寄書 公家大名名稱考 (承前) 録事 史學會雜誌第廿五號を讀て再び星野博士に質す 松本生の質問に答へ併せて其名を問ふ 多摩郡御嶽山紀行 (承前) 荷田東麻呂大人の逸事 史學會雜誌第廿五號を讀て博士の博に駭く はゆまつかひ 上杉治憲公壁書 | 文學博士 小中村清矩 松本愛重 星野恆 飯田武郷 小杉樞 玉名散人 代々幡仙人 忍の舎主人 | 一〇四 五〇九 九〇一六 一六〇一九 一九〇二二 二二〇二九 二九〇三〇 三〇〇三一 三二〇三三 | | | | | | | |

| | | | |
|--|---|--|---|
| | | 第三編 第二一 | |
| | | 明治二十五年二月二十五日印刷 同日出版 | |
| 編輯者 小石川區西江戸川町一番地 今泉定介 | 發行者 牛込區牛込水道町四十二番地 島山健 | 印刷者 印刷者 東京都神田區柳原 田中正造 | 發行所 麹町區飯田町五 丁目八番地 國學院内 國文學會 |
| 國文學 普通學科に於ける國語教師 論說 後水尾上皇徳川氏の政權回復を謀り給ひしといふ説の實否如何 文學と時勢 八幡神考(つゞき) 帝國大學史誌編纂の諸君に望む 學理上の文法及び實際の文法 | 萩野由之 文學士 高津鉄三郎 栗田寛 丸山正彦 文學士 三上參次 | 一五 五〇一四 一四〇二〇 一一〇三〇 三〇〇三三 三三〇四〇 | 發賣所 東京神田區裏神保町九番地 富山房 大賣捌所 東京京橋尾張町 東海道 同神田區錦町 朝陽堂 同神田區表神保町 東京堂 同神田區錦町 武藏屋 |
| 雜録 鯨と鯛と 近世神官職名 武士の道 謠古抄勘文 雪の下庵 鶯を聞く 江春雨 月前梅 梅間鶯 水鶯 紫式部 圍碁 雜報 | 林麿臣 小宮山綏介 松廬主人 村田了阿 小中村義象 林麿臣 黒川眞頼 青戸波江 田嶋春園 椎名正文 本居豐穎 阪正臣 塚原是將 | 四〇〇四三 四三〇四七 四七〇四七 四七〇五一 五一〇五三 | 長歌一首、短歌七首 |
| 國學院設立趣意書 東京圖書館、藏書及び閲覧人員(二二六 日官報) 歌話時代 熱漸収まらんとす 徳川時代の殉死 獨得の氣焰 「ミューゼウム」の新年附録 正誤 | | 五四〇五八 | |

第三編
第三

明治二十五年三月二十五日印刷
同日出版

| | | | | | | | |
|--|--|---|--|---|--|---|--|
| <p>編輯者 小石川區西江戸川町一番地 今泉定介 發行者 牛込區牛込水道町四十二番地 畠山健</p> | <p>印刷者 麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造</p> | <p>發行所 麹町區飯田町五丁目八番地 國學院内 國文學發行所</p> | <p>大賣捌所 神田區裏神保町 敬業社 同一ツ橋通り 有斐閣 同南神保町 博弘堂</p> | <p>國文學 學術家また文法を學ぶべし 論說 後水尾上皇徳川氏の政權回復を謀り給ひしといふ説の實否如何(つゞき) 八幡神考(つゞき) 英詩韻律一斑 日本人の學問 雜録 の「が。ぞ。や。か。なん。こそ 伊勢の祠官を御師といひ大夫と呼ぶ事 鯨と鰯と(前のつゞき) 國學及和歌傳統圖の詳評 少女菅生に與ふる書 海雪朝 霞添山色 花間鶯 行路柳 夕春雨 明治二十四年の暮秋上方に大地震のさわきありけるをきゝてうれたみのあまりよめる長歌 寄書 文學士三上參次氏に質す 雜報 皇太子殿下御留學の期 久米氏の神道論 事の起り 世論一斑 而して其の源は 國祭大親睦會 古墳發見 小野小町の墓 國語と漢文と 書肆の奸策 國史眼の辨駁 國學院同窓會雜誌 國文學研究會</p> | <p>萩野由之 栗田寛 文學士 坪内雄藏 内藤耻叟 坂正臣 黒川春村 林麿臣 井上通泰 盤出屋主人 文學博士 小中村清矩 黒田清綱 高崎正風 小出粲 出雲 野津秋村 京都 酒井熊雄</p> | <p>一〇四 五〇一 一一〇三 二二〇二九 二九〇三四 三四〇三六 三六〇三九 三九〇四一 四一〇四五 四五〇四八 四八〇四九 五〇〇五二 五三〇五八</p> | |
|--|--|---|--|---|--|---|--|

| | | | | | | | |
|-----------------------|-----------------|------------------------|---------------|--|-------------------------------|---------------------------------------|---|
| 第三編 第四 | | 明治二十五年四月二十五日印刷 同日出版 | | 編輯者 小石川區西江戸川町一番地 今泉定介 發行者 牛込區牛込水道町四十二番地 島山健 | 印刷者 麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 | 發行所 麹町區飯田町五丁目八番地 國學院内 國文學發行所 | 大賣捌所 神田區裏神保町 敬業社 同一ツ橋通り 有斐閣 同南神保町 博弘堂 |
| 國文學 | 國史國文の教授に困難なる一事情 | | 文學博士 小中村清矩 | 一五五 | 國文論纂(第二) | | |
| 論說 | | | 栗田寛 | 一七〇二四 | | | |
| 國文學大意 | | | 内藤恥叟 | 一四〇二八 | | | |
| 八幡神考(つゞき) | | | 林麿臣 | 二八〇二九 | | | |
| 雜錄 | 三十年史を讀て有感 | | 菅喜田生 | 二九〇三一 | | | |
| 文かくわざを學生にもとく | | | 黒田清綱 | | | | |
| 馬の出所 | | | 御巫清直 | | | | |
| 松間花 | | | 永山盛輝 | | | | |
| 野遊 | | | 黒川眞頼 | | | | |
| 寄都祝 | | | 高崎正風 | | | | |
| 披書思昔 | | | 林麿臣 | | | | |
| 孤夢易覺 | | | | | | | |
| 櫻花 | | | | | | | |
| 寄書 | | | | | | | |
| 「學理上の文法及實際の文法」を讀みて | | 京都 | | | | | |
| 三上文學士に質す。 | | 寺町愛山 | | 三二〇四三 | | | |
| 坂正臣先生にまをす。 | | 寺町愛山 | | 四三〇四四 | | | |
| 田口氏の孝謙天皇 | | 三矢重松 | | 四四〇五〇 | | | |
| 雜報 | | | | | | | |
| 教科用圖書檢定規則の改正 | | | | | | | |
| 櫻痴居士の外交小言 | | | | | | | |
| 謠曲の功用 | | | | | | | |
| 普通學科の國文 | | | | | | | |
| 歐洲の日本語學校 | | | | | | | |
| 附録 | | | | | | | |
| 祭天故俗の妄を辨ず | | 三矢重松 | | 五九〇七〇 | | | |
| 大古の俗天を祭りて神を祭らずといふ説の可否 | | 鈴木宗辰 | | 七〇〇七三 | | | |
| 神道は祭天の古俗といふ説をきよめて | | 井手義信 | | 七三〇七六 | | | |

『皇典講究所講演』 総目録

| 號 | 印刷・出版(發行)年月日 | 題名 | 講演者・著者 | 頁數 | 備考 |
|---|---|---|-----------------------------|--|---|
| 一 | 明治二十二年二月十四日印刷 同年三月十五日出版 同年三月二十七日再版 同年五月十三日三版 | 發行者 麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 印刷者 神田區錦町一丁目二番地 勝田郁之助 | 一〇一 一〇二 一〇三 一〇四 一〇五 一〇六 一〇七 一〇八 一〇九 一一〇 | 法制論纂、國史論纂、 國文論纂 法制論纂 國史論纂、 國文論纂 |
| | | 山田伯演說 | 山田顯義 | 一〇一 | 法制論纂、國史論纂、 國文論纂 |
| | | 井上毅君演說 | 井上毅 | 一〇二 | 法制論纂、 國文論纂、 國史論纂 |
| | | 皇典講究所改正ノ趣意 | | 一〇三 | 國文論纂 |
| | | 皇典講究所規則・學科 | | 一〇四 | 國文論纂 |
| | | 刑法講義 (三版) 刑法 | 木村正辭 | 一〇五 | 法制論纂 (第一) |
| | | 日本上世の政體 | 有賀長雄 | 一〇六 | 國史論纂 (第五) |
| | | 記事 (第三版) 紀事 | | 一〇七 | |
| | | 發行者 麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 印刷者 神田區錦町一丁目二番地 勝田郁之助 | 一〇八 | |
| | | 位階の説 | 小中村清矩 | 一〇九 | |
| 二 | 明治二十二年二月二十八日印刷 同年三月一日出版 同年四月四日再版 | 古言 | | 一一一 | 法制論纂 (第三十一) |
| | | 日本學 | 井上毅 | 一一二 | 國文論纂 (第二十九) |
| | | 職官の起原 | 飯田武郷 | 一一三 | 法制論纂 (第一) |
| | | 紀事 | | 一一四 | |
| | | 發行者 麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 印刷者 神田區錦町一丁目二番地 勝田郁之助 | 一一五 | |
| | | 德川氏施政の大意 | 内藤耻叟 | 一一六 | 法制論纂 (第七十四) |
| | | 國史動植考の大意 | 井上頼國 | 一一七 | |
| | | 系統に關する風俗 | 本居豐穎 | 一一八 | |
| | | 紀(記)事 | | 一一九 | |
| | | 發行者 麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 印刷者 神田區錦町一丁目二番地 勝田郁之助 | 一二〇 | |
| 三 | 明治二十二年三月十四日印刷 同年三月十五日出版 同年四月六日再版 | 發行所 | 川田剛 | 一二一 | 國文論纂 (第三十五) |
| | | 寶物取調に付き所見を述べ 普通語に付て | 落合直澄 | 一二二 | 法制論纂續編 (第三十八) |
| | | 江戸米商の沿革 | 小宮山綏介 | 一二三 | |
| | | 發行者 麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 印刷者 神田區錦町一丁目二番地 勝田郁之助 | 一二四 | |
| | | 德川氏施政の大意 | 内藤耻叟 | 一二五 | 法制論纂 (第七十四) |
| | | 國史動植考の大意 | 井上頼國 | 一二六 | |
| | | 系統に關する風俗 | 本居豐穎 | 一二七 | |
| | | 紀(記)事 | | 一二八 | |
| | | 發行者 麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 印刷者 神田區錦町一丁目二番地 勝田郁之助 | 一二九 | |
| | | 發行者 麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 印刷者 神田區錦町一丁目二番地 勝田郁之助 | 一三〇 | |
| 四 | 明治二十二年四月一日出版 同年同日印刷 | 發行所 | 川田剛 | 一三一 | 國文論纂 (第三十五) |
| | | 寶物取調に付き所見を述べ 普通語に付て | 落合直澄 | 一三二 | 法制論纂續編 (第三十八) |
| | | 江戸米商の沿革 | 小宮山綏介 | 一三三 | |
| | | 發行者 麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 印刷者 神田區錦町一丁目二番地 勝田郁之助 | 一三四 | |
| | | 德川氏施政の大意 | 内藤耻叟 | 一三五 | 法制論纂 (第七十四) |
| | | 國史動植考の大意 | 井上頼國 | 一三六 | |
| | | 系統に關する風俗 | 本居豐穎 | 一三七 | |
| | | 紀(記)事 | | 一三八 | |
| | | 發行者 麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 印刷者 神田區錦町一丁目二番地 勝田郁之助 | 一三九 | |
| | | 發行者 麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 印刷者 神田區錦町一丁目二番地 勝田郁之助 | 一四〇 | |

| | | | | | |
|-------------------|----------------------------|--|---|---|---|
| 九 | 明治二十二年六月十四日印刷 同年六月十五日出版 | 發行者 麴町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 印刷者 神田區錦町一丁目二番地 勝田郁之助 | 一〇三三 一三〇三五 三五〇五一 五〇〇五二 一七〇三〇 | 法制論纂續編(第五) 法制論纂續編(第六) 法制論纂續編(第三十七) 法制論纂續編(第十一) |
| 皇典講究 所改正要 領 | 明治二十二年六月二十四日印刷 同年同月同日出版 | 編輯兼發行者 東京麴町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 山田伯演說 皇典講究所改正ノ趣意 規則 學科 講師 講演發行手續 皇典講究所講演目錄 | 印刷者 全神田區錦町一丁目二番地 勝田郁之助 山田顯義 | 一五〇一五 一六〇一八 一八〇一九 一九〇二〇 二〇〇二一 二一〇二二 二二〇二四 | 非売品 |
| 十 | 明治二十二年六月三十日印刷 同年七月一日出版 | 發行者 麴町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 建國之說難 日本古代の道德 紀事 附録『詞訟』 | 印刷者 神田區錦町一丁目二番地 勝田郁之助 吉岡徳明 久保憲隣 村岡良弼 | 一〇四八 四八〇六六 六六〇六八 一〇二二 | |
| 十一 | 明治二十二年七月十四日印刷 同年七月十五日出版 | 發行者 麴町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 日本歴史時代分割論 人名の種別(承前) 文章の誤謬 紀事 附録『詞訟』 | 印刷者 神田區錦町一丁目二番地 勝田郁之助 有賀長雄 本居豊穎 落合直文 村岡良弼 | 一〇一七 一八〇三二 三二〇六〇 六〇〇六一 一三〇三〇 | 國史論纂(第三) 國文論纂(第四十一) |
| 十二 | 明治二十二年七月三十一日印刷 同年八月一日出版 | 發行者 麴町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 日本の長子權 日本文章論 人名の種別(承前) 徳川氏通貨の事(承前) 附録『詞訟』(終) | 印刷者 神田區錦町一丁目二番地 勝田郁之助 丸山正彦 物集高見 本居豊穎 内藤耻叟 村岡良弼 | 一〇二二 一一〇三一 三一〇六五 六五〇七六 三一〇三六 | 國文論纂(第三十八) |

| | | | | | |
|-----|------------------------------|--|--|--|--------------------------------------|
| 十八 | 明治二十二年十月三十一日印刷 同年十一月一日出版 | 發行者 趙町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 徳川氏通貨之事(第三回) 歸化人任用の古法 古今比較論 人名種別(追加) 紀事 | 印刷者 神田區錦町一丁目二番地 勝田郁之助 内藤耻叟 萩野由之 黒川眞頼 本居豊頼 | 印刷所 趙町區飯田町五丁目二 十六番地 皇典講究所印刷部 一〇一四 | 法制論纂(第十七) 國史論纂(第五十三) |
| 十九 | 明治二十二年十一月十四日印刷 同年十一月十五日出版 | 發行者 趙町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 町會所の始末 美術と歴史との關係(承前) 藥師寺 唐招提寺 書籍目錄編成の方案 歴史紀年法 詞考筆録第二 紀事 | 印刷者 趙町區飯田町五丁目二十 六番地 近藤圭造 小宮山綏介 小杉楯郎 井上頼圀 三上參次 落合直澄 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇二六 二六〇三七 三七〇四八 三八〇七三 三九〇八三 四〇〇九三 | 法制論纂(第七十一) 國史論纂(第七十二) 國史論纂(第四) |
| 二十 | 明治二十二年十一月三十日印刷 同年十二月一日出版 | 發行者 趙町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 立太子古禮 徳川時代の皇室 徳川氏通貨の事(第四回) 詞考筆録第二(續) 詞考筆録第三 紀事 | 印刷者 趙町區飯田町五丁目二十 六番地 近藤圭造 小中村義象 萩野由之 内藤耻叟 落合直澄 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇一八 一八〇四〇 四〇〇四六 四六〇六九 六九〇七〇 | 法制論纂(第二十六) |
| 二十一 | 明治二十二年十二月十四日印刷 同年十二月十五日出版 | 發行者 趙町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 大寶令の中古來の習慣によりて製作 せし所々 東京地理の沿革 小説の歴史 質疑答辨 紀事 | 印刷者 趙町區飯田町五丁目二十 六番地 近藤圭造 小中村清矩 小宮山綏介 關根正直 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇三四 三四〇六三 六三〇八〇 八〇〇八四 八四〇八五 | 法制論纂(第二十) 國史論纂(第八十三) 國文論纂(第十八) |
| 二十二 | 明治二十三年一月一日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 趙町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 大嘗の大禮 | 印刷者 趙町區飯田町五丁目二十 六番地 近藤圭造 小中村義象 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇二五 | 法制論纂(第二十三) |

| | | | | | | | | |
|-----|----------------------------|---|--|--|-----------------------------------|----------------------|---|------------------------------------|
| 二十七 | 明治二十三年三月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 附録『年紀異同攷』(承前) | 木村正辭 | 印刷者 麹町區飯田町五丁目二十 六番地 近藤圭造 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 三二〇 三二一 三二二 三二三 三二四 三二五 三二六 三二七 三二八 三二九 三三〇 | 法制論纂(第三) 法制論纂(第十六) 國文論纂(第十九) |
| 二十六 | 明治二十三年二月二十八日印刷 同年三月一日出版 | 發行者 麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 祭神職官(承前) 文官登庸の古法 日本の聲音 紀事 | 飯田武郷 丸山正彦 村岡良弼 關根正直 | 印刷者 麹町區飯田町五丁目二十 六番地 近藤圭造 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 二五〇 二五一 二五二 二五三 二五四 二五五 二五六 二五七 二五八 二五九 二六〇 | 法制論纂(第十二) 法制論纂續編(第十六) |
| 二十五 | 明治二十三年二月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 附録『年紀異同攷』 幕府大老の廢置 學事の評論 詞考筆録第四 紀事 | 飯田武郷 丸山正彦 村岡良弼 關根正直 | 印刷者 麹町區飯田町五丁目二十 六番地 近藤圭造 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 二六〇 二六一 二六二 二六三 二六四 二六五 二六六 二六七 二六八 二六九 二七〇 | 法制論纂續編(第三十一) |
| 二十四 | 明治二十三年一月三十一日印刷 同年二月一日出版 | 發行者 麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 年官年爵并成功重任考 古今比較論 國體教育の必要 奈良朝の文學 紀事 | 伯爵 山田顯義 小中村清矩 黒川眞賴 内藤耻叟 落合直文 | 印刷者 麹町區飯田町五丁目二十 六番地 近藤圭造 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 一〇五 一〇六 一〇七 一〇八 一〇九 一一〇 一一一 一一二 一一三 一一四 一一五 | 法制論纂(第十五) 國文論纂(第十三) |
| 二十三 | 明治二十三年一月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 諸省古代職官 土地所有權の沿革 景行天皇紀を讀む 小説の歴史(承前) | 飯田武郷 丸山正彦 村岡良弼 關根正直 | 印刷者 麹町區飯田町五丁目二十 六番地 近藤圭造 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 一五〇 一五一 一五二 一五三 一五四 一五五 一五六 一五七 一五八 一五九 一六〇 | 法制論纂(第三十七) 法制論纂(第二) |

| | | | | | |
|-----|---------------------------|---|---|--|---|
| 三十七 | 明治二十三年八月十五日印刷 同年同月同日出版 | 美術と歴史との關係(承前) 近代の人口并人口と天時との關係 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 祭神職官(承前) 將軍宣下の禮儀 養子の制 近代の人口并人口と天時との關係 (承前) 君仁民忠國 | 小杉楳郎 小宮山綏介 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 飯田武郷 内藤耻叟 丸山正彦 | 四七〇五九 五九〇六六 | 國史論纂(第七十二) 國史論纂(第五十四) |
| 三十八 | 明治二十三年九月一日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 徳川氏官制 第一回 班田收授法 和魂漢才の一言 和歌所の考 | 阪正臣 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 萩野由之 吉岡徳明 黒川眞頼 | 五二〇五九 五二〇五九 三五〇五二 一〇〇三五 五九〇六六 | 法制論纂(第五) 法制論纂續編(第二十七) 法制論纂續編(第十七) 國史論纂(第五十四) |
| 三十九 | 明治二十三年九月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 御歴代官號 宣誓の式 國文國語の話 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 阪正臣 丸山正彦 本居豊頼 | 一〇〇三五 一四〇二一 一四〇二一 三四〇六一 | 國文論纂(第五十三) 法制論纂續編(第二十三) 國文論纂(第三十二) |
| 四十 | 明治二十三年十月一日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 源平藤橘 備荒儲蓄法沿革 和文漢文比較説 紀事 國學院設立趣意書 國學院規則 本科學科課程表 研究科學科課程表 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 關根正直 川田剛 | 一〇〇三五 一〇〇三五 一〇〇三五 一〇〇三五 一〇〇三五 一〇〇三五 | 國史論纂(第十九) 法制論纂續編(第二十) 國文論纂(第十一) |
| 四十一 | 明治二十三年十月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 江戸町奉行の事 寄町役人等の事 附 與力同心町年 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 小宮山綏介 | 一〇〇三五 一〇〇三五 一〇〇三五 | 國史論纂(第十一) |

| | | | | | |
|-----|----------------------------|--|--|--|---------------------------------|
| 四十二 | 明治二十三年十一月一日印刷 同年同月同日出版 | <p>觸穢及び肉食の説 政體概略 和文漢文比較説(承前) 紀事</p> <p>發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄</p> <p>上古禁衛職官 徳川氏官制 第二回 本邦經濟學史編纂の必要 言語の成立 第三回 美術と歴史との關係(承前) 管公筆蹟 といふもの 紀事</p> | <p>小中村義象 木村正辭 川田剛 六三</p> | <p>二七〇三七 三七〇五三 五三〇六三 六三</p> | <p>法制論纂續編(第五十四)</p> |
| 四十三 | 明治二十三年十一月十五日印刷 同年同月同日出版 | <p>發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄</p> <p>政事の本義 日本の文字 江戸町奉行の事 附 與力同心町年寄町役人等の事(完) 國司郡司の始末 紀事</p> | <p>印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 黒川眞賴 佐藤寛 小宮山綏介 小中村清矩</p> | <p>印刷所 同 皇典講究所印刷部 一〇一三 一三〇三八 三八〇六〇 六〇〇六七 六七〇六八</p> | <p>法制論纂(第七十) 法制論纂(第七十二)</p> |
| 四十四 | 明治二十三年十二月一日印刷 同年同月同日出版 | <p>發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄</p> <p>外交通論三(承前) 國司郡司の始末(承前) 詞考筆録 第五(承前) 紀事</p> <p>附録 『國學院開院式景況及演説』 ○國學院開院式 ○高崎國學院長の演説 ○山田皇典講究所長の演説 ○谷干城君の演説 ○辻信次君の祝詞 ○西村茂樹君の演説</p> | <p>印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 木村正辭 小中村清矩 落合直澄</p> | <p>印刷所 同 皇典講究所印刷部 一〇一四 一四〇三三 一三〇三八 三八</p> | |
| 四十五 | 明治二十三年十二月十五日印刷 同年同月同日出版 | <p>發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄</p> <p>本邦經濟學史編纂の研究法 貞永式目の法埋</p> | <p>印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 菅喜田和三郎 有賀長雄</p> | <p>印刷所 同 皇典講究所印刷部 一〇一一 一一〇二二</p> | |

| | | | | | | |
|-----|---------------------------|---|--|--------------------------------------|--|---|
| 四十九 | 明治二十四年二月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 近世の戸籍法 本朝度量衡略説 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 萩野由之 小中村清矩 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 一〇二二 一〇二一 一一〇〇 | 法制論纂(第七十七) 法制論纂(第五十三) |
| 四十八 | 明治二十四年二月一日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 諸省古代職官(四十六の續) 本邦農業の起源及發達 徳川氏刑政の一斑 美術と歴史との關係(繪畫)(四十 六の續) 西洋學者に望む 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 飯田武郷 菅喜田和三郎 三上參次 小杉楯邨 内藤耻叟 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 一〇二三 一〇二五 一〇四三 一〇三〇 一〇六八 一〇六八 | 法制論纂(第十一) 法制論纂(第六十八) 國史論纂(第七十二) |
| 四十七 | 明治二十四年一月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 大名領地の由來 中古の戸籍法 古代刑律一斑 留學生 日本の文章(四十五の續) 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 萩野由之 木村正辭 小宮山綏介 佐藤寛 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 一〇二七 一〇四〇 一〇五一 一〇六〇 一〇六八 一〇六八 | 法制論纂續編(第三十) 法制論纂(第四十七) 法制論纂續編(第八) |
| 四十六 | 明治二十四年一月一日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 諸省古代職官(二十二の續) 古代婚姻に關する慣例法律(三十六 の續) 美術と歴史との關係(繪畫)(四十 二の續) 尊稱の種別 紀事 附録『衣服圖式』(天平時代冠服圖 添) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 飯田武郷 關根正直 小杉楯邨 本居豐穎 小杉楯邨 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 一〇二四 一〇二六 一〇四八 一〇六八 一〇六八 一〇九 | 法制論纂(第十一) 國史論纂(第七十二) 國文論纂(第三十二) |
| | | 斯道の説 言語成立第四 日本の文章 紀事 附録『谷秦山三宅尚齋兩氏往復書』 | 内藤耻叟 落合直澄 佐藤寛 | 一〇三三 一〇五一 一〇六二 一〇六三 一〇一一 | 國文論纂(第四十) | |

| | | | | | |
|-----|---------------------------|--|--|----------------------|--|
| 五十四 | 明治二十四年五月一日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 日本古禮の一斑 鎌倉史談(五十一の續) 日本語學擴張の方案(五十三の續) 日本語學擴張の古風 人身賣買の古風 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 本居豐穎 有賀長雄 佐藤寛 關根正直 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 法制論纂續編(第四十六) 國史論纂(第五十四) 法制論纂(第五十) |
| 五十五 | 明治二十四年五月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 武家服制 第二(五十一の續) 日本語の起原および變遷のあらまし 日本古禮の一斑(五十四の續) 徳川氏の民政 (其政教一致及び干渉政治の一斑) 近世の戸籍法(五十三の續) 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 物集高見 本居豐穎 三上參次 萩野由之 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 法制論纂續編(第四十九) 國文論纂(第二十五) 法制論纂續編(第四十六) 法制論纂(第六十九) |
| 五十六 | 明治二十四年六月一日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 諸省古代職官(五十三の續) 中古刑政一斑 留學生(四十七の續) 古代の神社(三十の續) 量攷 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 飯田武郷 小中村義象 小宮山綏介 宮地嚴夫 黒川眞頼 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 法制論纂續編(第九) 法制論纂(第五十四) |
| 五十七 | 明治二十四年六月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 陰陽道考 量攷(五十六の續) 近世の戸籍法(五十五の續) 豊臣徳川の興廢 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 小中村清矩 黒川眞頼 萩野由之 内藤耻叟 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 法制論纂續編(第五十二) 國史論纂(第二十六) |
| 五十八 | 明治二十四年七月一日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 諸省古代職官(五十六の續) 東夷を治めつる政略 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 飯田武郷 久米幹文 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 法制論纂(第十一) |

| | | | | | |
|-----|----------------------------|--|---|---|--|
| 六十三 | 明治二十四年九月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | 法制論纂(第七十五・第七十六) |
| 六十四 | 明治二十四年十月一日印刷 同年同月同日出版 | 德川氏官制 <small>大名役官制大綱</small> (六十一の續) 美術と歴史との關係の三 (六十の續) 敬神の概言 德川氏の出擧 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 内藤耻叟 小杉楯郎 本居豐穎 小宮山綏介 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 | 一〇一七 一七〇三八 三八〇四六 四六〇六二 印刷所 皇典講究所印刷部 | 法制論纂(第七十二) 國史論纂(第七十二) 法制論纂續編(第二十九) |
| 六十五 | 明治二十四年十月十五日印刷 同年同月同日出版 | 德川氏官制 <small>奥右筆</small> (六十三の續) 古代の道路法 禮式と社會の制裁 古代西蕃をして本邦の神を祭らしむ 徳川時代の風俗 (十七の續) 紀事 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 内藤耻叟 萩野由之 三上參次 宮地巖夫 關根正直 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 | 一〇一四 一四〇三三 三三〇四五 四五〇五五 五五〇六八 六八 印刷所 皇典講究所印刷部 | 法制論纂(第七十六) 法制論纂續編(第二十二) |
| 六十六 | 明治二十四年十一月一日印刷 同年同月同日出版 | 古來政府考 美術と歴史との關係 <small>書道</small> (六十三の續) 田植神事及田歌 紀事 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 小杉楯郎 菅喜田和三郎 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 | 一〇二五 二五〇四八 四九〇六六 六六 印刷所 皇典講究所印刷部 | 國史論纂(第十) 國史論纂(第七十二) |
| 六十七 | 明治二十四年十一月十五日印刷 同年同月同日出版 | 修史概要 古代の道路法 (六十四の續) 新嘗祭豐明節會考 德川氏官制 <small>町村役人</small> (六十四の續) 本邦古代奴婢起源 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 | 飯田武郷 萩野由之 小中村義象 内藤耻叟 有賀長雄 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 | 一〇三三 三三〇四一 四一〇五二 五二〇五九 印刷所 皇典講究所印刷部 | 法制論纂(第二十九) 法制論纂(第七十六) 法制論纂(第五十) |
| | | 修史概要 (六十六の續) 洋學源流 德川氏官制 <small>田制租法の事</small> (六十六の續) | 飯田武郷 關根正直 内藤耻叟 | 一〇一〇 一〇二五 二五〇四三 | 國史論纂(第五十八) 法制論纂(第七十六) |

| | | | | | |
|-----|----------------------------|---|---|---|--|
| 六十八 | 明治二十四年十二月一日印刷 同年同月同日出版 | 敬禮考 招魂は鎮魂なり 紀事 | 小中村義象 村岡良弼 | 四三～五六 五六～六一 六一 | 法制論纂續編(第四十四) |
| 六十九 | 明治二十四年十二月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 聖德太子御像の辨 名田考 太平記は勅撰の書なりとするも不可 無きものゝ如し 古の歌垣と今の盆踊 徳川政府の出版法規 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 黒川眞頼 小宮山綏介 宮地巖夫 菅喜田和三郎 關根正直 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一～九 九～二〇 二〇～三八 三八～五七 五七～六九 六九 | 法制論纂(第七十六) 國文論纂(第五十一) 法制論纂(第七十八) |
| 七十 | 明治二十五年一月一日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 上古男女裝飾圖辨 古代の小説 赦令の事 道徳史編纂に就きて 應神天皇御降誕考 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 黒川眞頼 小中村清矩 小宮山綏介 丸山正彦 落合直文 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一～二二 二二～三三 三四～四七 四七～六〇 六一 | 國史論纂(第六十六) 國文論纂(第十七) |
| 七十一 | 明治二十五年一月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 永祿元龜天正年間常陸國穀價略表 美術と歴史との關係 <small>書道の附録 傍假字文</small> (六十九の續) 徳川政府の出版法規(六十八の續) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 栗田寛 小杉楡邨 關根正直 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一～六 六～一七 一七～三二 | 國史論纂(第七十二) 演』になし |

| | | | | | | |
|-----|---------------------------|---|--|--|--|--------------------------------------|
| 七十二 | 明治二十五年二月一日印刷 同年同月同日出版 | 邦文上の敬語 発行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 指導者と行爲者 祓禊沿革 邦文上の敬語(七十一の續) | 三橋要也 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 西村茂樹 小中村清矩 三橋要也 | 三二一〜六〇 | | |
| 七十三 | 明治二十五年二月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 赦令の事(七十の續) 忌部神社所在檢註を見て思へる事ども 美術と歴史との關係 歴史に見えたる、上古中古美術品の、支那また朝鮮などに關係ある説(七十一の續) 俠客の社會に及ぼしたる勢力 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 小宮山綏介 栗田寛 小杉楯邨 菅喜田和三郎 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 一〇一三 一三〇一九 一九〇三八 三八〇六二 六三 | | 國史論纂(第七十二) |
| 七十四 | 明治二十五年三月一日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 美醜の別 美術と歴史との關係 歴史に見えたる、上古中古美術品の、支那また朝鮮などに關係ある説(七十二の續) 家作沿革 有物有則 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 本居豊穎 小杉楯邨 小中村義象 内藤耻叟 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 一〇一一 一一〇三二 三二〇四九 四九〇五八 五八〇五九 | | 國史論纂(第七十) |
| 七十五 | 明治二十五年三月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 徳川氏官制 老中職(六十九の續) 美術と歴史との關係 歴史に見えたる、上古中古美術品の、支那また朝鮮などに關係ある説(七十四の續) 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 小杉楯邨 有賀長雄 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 一〇一五 一五〇二九 二九〇五九 六〇 | | 國史論纂(第七十六) 國史論纂(第七十二) 國史論纂(第六) |

| | | | | | |
|-----|---------------------------|--|---|---|--|
| 七十六 | 明治二十五年四月一日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 修史概要(六十七の續) 片力ナ字源 丹生大明神告門考證 近代の紙幣 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 飯田武郷 村岡良弼 栗田寛 小宮山綏介 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇二二一 一一〇二三 一二〇四五 一三〇六一 六一 | 國文論纂(第二十三) 國史論纂(第三十五) |
| 七十七 | 明治二十五年四月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 上古男女裝飾圖辨(七十の續) 丹生大明神告門考證(七十六の續) 賭博に關する古來の法度 免寸河の高樹の根株 倫理上法理の質疑 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 黒川眞頼 栗田寛 關根正直 小田清雄 内藤耻叟 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇二二一 一一〇二三 一二〇四五 一三〇六一 六一 | 國史論纂(第六十六) 法制論纂(第四十五) |
| 七十八 | 明治二十五年五月一日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 建武式目の辨 融通手形の事 古代の習俗并に歳時 徳川政府の出版法規(七十一の續) 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 萩野由之 小宮山綏介 小中村清矩 關根正直 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇二二一 一一〇二三 一二〇四五 一三〇六一 六一 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 法制論纂(第六十) 法制論纂續編(第三十五) 國史論纂(第六十二) |
| 七十九 | 明治二十五年五月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 古代の習俗并に歳時(七十八の續) 老中傳記 徳川氏官制老中職の附録 式目追加考 刑法沿革圖 片桐東市正の事蹟 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 小中村清矩 内藤耻叟 萩野由之 村岡良弼 丸山正彦 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇二二一 一一〇二三 一二〇四五 一三〇六一 六一 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國史論纂(第六十二) 法制論纂(第五十九) 法制論纂(第四十) |
| 八十 | 明治二十五年六月一日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 刑法沿革圖(七十九の續) 修史概要(七十六の續) 里程の事 片桐東市正の事蹟(七十九の續) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 村岡良弼 飯田武郷 小宮山綏介 丸山正彦 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇二二一 一一〇二三 一二〇四五 一三〇六一 六一 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 法制論纂(第五十五) |

| | | | | | |
|-----|---------------------------|---|--|---|---|
| 八十一 | 明治二十五年六月十五日印刷 同年同月同日出版 | 紀事 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 片桐東市正の事蹟(八十の續) 書簡文の由來 老中傳記 徳川氏官制老中職の附録(七十 九の續) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁 目二十六番地 近藤圭造 丸山正彦 佐藤寛 内藤耻叟 目黒和三郎 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 一〇〇二四 二四〇四二 四二〇六三 六三 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國文論纂(第四十二) |
| 八十二 | 明治二十五年七月一日印刷 同年同月同日出版 | 紀事 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 美術と歴史との關係 <small>大古器物のうち 曲玉といふもの</small> (七十五の續) 和蘭通交一斑 鎌倉時代の裁判手續 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁 目二十六番地 近藤圭造 小杉楢郎 小宮山綏介 萩野由之 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 一〇一五 一五〇二八 二九〇六二 六三 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國史論纂(第七十二) 國史論纂(第七十八) 法制論纂(第六十六) |
| 八十三 | 明治二十五年七月十五日印刷 同年同月同日出版 | 紀事 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 觸穢及肉食の補説 老中傳記 徳川氏官制老中職の附録(八十 一の續) 刀夷賊來寇の事 穢多非人考 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁 目二十六番地 近藤圭造 本居豊頼 内藤耻叟 關根正直 萩野由之 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 一〇一六 一六〇二六 二七〇四七 四七〇六五 六六 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 法制論纂續編(第五十五) 國史論纂(第三十七) |
| 八十四 | 明治二十五年八月一日印刷 同年同月同日出版 | 紀事 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 日本人種は蝦夷人種なりと云ふ説を 辨ず 美術と歴史との關係 <small>上古美術の状況又現今 存在の四五品に就きて</small> (八十二の續) 欲 上古の司法制度 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁 目二十六番地 近藤圭造 黒川眞頼 小杉楢郎 木村正辭 萩野由之 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 一〇八 八〇三二 三三〇五二 五二〇六四 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 法制論纂(第三十八) |
| 八十五 | 明治二十五年八月十五日印刷 同年同月同日出版 | 紀事 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 大介考補遺 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁 目二十六番地 近藤圭造 栗田寛 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 一〇一六 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 法制論纂(第十四) |

| | | | | | |
|-----|---------------------------|--|--|---|--|
| 八十九 | 明治二十五年十月十五日印刷 同年同月同日出版 | <p>武者服制第三(五十五の續) 舊幕府法令の各目 室町幕府の明貿易</p> <p>發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄</p> <p>初後神鏡考 古へ三韓の我國に屬せりし原由 武者服制第四(八十五の續) 美術と歴史との關係<small>始めて佛を製作したる事實</small> (八十四の續)</p> <p>史學私見</p> <p>發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄</p> <p>守護地頭略表附守護地頭職制 (八十七の續)</p> | <p>内藤耻叟 小宮山綏介 横井時冬</p> <p>印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造</p> <p>飯田武郷 久米幹文 内藤耻叟 小杉楳邨</p> <p>關根正直</p> <p>印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造</p> <p>栗田寛 小杉楳邨 宮地嚴夫 佐藤寛</p> <p>印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造</p> <p>黒川眞頼 小宮山綏介</p> <p>小杉楳邨</p> <p>松本愛重 萩野由之 佐藤寛 丸山正彦</p> <p>印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造</p> <p>久米幹文 栗田寛</p> | <p>一六〇三〇 三〇〇四九 四九〇六六</p> <p>印刷所 皇典講究所印刷部</p> <p>一〇一九 一九〇二六 二六〇四七 四七〇五六 五六〇六四</p> <p>皇典講究所印刷部</p> <p>一〇三二 三三〇四五 四五〇五五 五六〇六四</p> <p>印刷所 皇典講究所印刷部</p> <p>一〇九 九〇二四</p> <p>二四〇三五</p> <p>三六〇四六 四六〇五一 五一〇五五 五五〇六三 六四</p> <p>印刷所 皇典講究所印刷部</p> <p>一〇二二 一一〇一八</p> | <p>法制論纂續編(第四十九) 法制論纂續編(第二十六)</p> <p>賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂</p> <p>法制論纂續編(第四十九)</p> <p>賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂</p> <p>國史論纂(第七十二) 國史論纂(第四十四) 法制論纂(第六十一) 國史論纂(第五十七)</p> <p>賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂</p> |
| 八十八 | 明治二十五年十月一日印刷 同年同月同日出版 | <p>舊幕府法令の各目(八十五の續) 美術と歴史との關係<small>平等院の鳳凰堂は大極殿の面影と云へきものか</small> (八十七の續)</p> <p>武士道 建武式目辨補正 本邦詩學の源流(八十七の續) 豐臣氏の大小名 紀事</p> <p>發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄</p> <p>源義仲の話 舊幕府法令の各目(八十五の續)</p> <p>美術と歴史との關係<small>平等院の鳳凰堂は大極殿の面影と云へきものか</small> (八十七の續)</p> | <p>小宮山綏介</p> <p>小杉楳邨</p> <p>松本愛重 萩野由之 佐藤寛 丸山正彦</p> <p>印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造</p> <p>黒川眞頼 小宮山綏介</p> <p>小杉楳邨</p> <p>松本愛重 萩野由之 佐藤寛 丸山正彦</p> <p>印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造</p> <p>久米幹文 栗田寛</p> | <p>九〇二四</p> <p>二四〇三五</p> <p>三六〇四六 四六〇五一 五一〇五五 五五〇六三 六四</p> <p>印刷所 皇典講究所印刷部</p> <p>一〇二二 一一〇一八</p> | <p>國史論纂(第七十二) 國史論纂(第四十四) 法制論纂(第六十一) 國史論纂(第五十七)</p> <p>賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂</p> |
| 八十七 | 明治二十五年九月十五日印刷 同年同月同日出版 | <p>推古天皇紀を續む 本邦詩學の源流</p> <p>發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄</p> <p>守護地頭略表附守護地頭職制 (八十六の續)</p> <p>美術と歴史との關係<small>中宮寺法輪寺等の古物由來</small> (八十六の續)</p> | <p>宮地嚴夫 佐藤寛</p> <p>印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造</p> <p>栗田寛 小杉楳邨 宮地嚴夫 佐藤寛</p> <p>印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造</p> <p>栗田寛 小杉楳邨 宮地嚴夫 佐藤寛</p> | <p>一〇三一 三三〇四五 四五〇五五 五六〇六四</p> <p>印刷所 皇典講究所印刷部</p> <p>一〇三二 三三〇四五 四五〇五五 五六〇六四</p> <p>印刷所 皇典講究所印刷部</p> <p>一〇九 九〇二四</p> <p>二四〇三五</p> <p>三六〇四六 四六〇五一 五一〇五五 五五〇六三 六四</p> <p>印刷所 皇典講究所印刷部</p> <p>一〇二二 一一〇一八</p> | <p>法制論纂(第六十三) 國史論纂(第七十二) 國史論纂(第五十七)</p> <p>賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂</p> <p>國史論纂(第七十二) 國史論纂(第五十七)</p> <p>賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂</p> |
| 八十六 | 明治二十五年九月一日印刷 同年同月同日出版 | <p>武者服制第三(五十五の續) 舊幕府法令の各目 室町幕府の明貿易</p> <p>發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄</p> <p>初後神鏡考 古へ三韓の我國に屬せりし原由 武者服制第四(八十五の續) 美術と歴史との關係<small>始めて佛を製作したる事實</small> (八十四の續)</p> <p>史學私見</p> <p>發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄</p> <p>守護地頭略表附守護地頭職制 (八十七の續)</p> | <p>内藤耻叟 小宮山綏介 横井時冬</p> <p>印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造</p> <p>飯田武郷 久米幹文 内藤耻叟 小杉楳邨</p> <p>關根正直</p> <p>印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造</p> <p>栗田寛 小杉楳邨 宮地嚴夫 佐藤寛</p> <p>印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造</p> <p>黒川眞頼 小宮山綏介</p> <p>小杉楳邨</p> <p>松本愛重 萩野由之 佐藤寛 丸山正彦</p> <p>印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造</p> <p>久米幹文 栗田寛</p> | <p>一六〇三〇 三〇〇四九 四九〇六六</p> <p>印刷所 皇典講究所印刷部</p> <p>一〇一九 一九〇二六 二六〇四七 四七〇五六 五六〇六四</p> <p>皇典講究所印刷部</p> <p>一〇三二 三三〇四五 四五〇五五 五六〇六四</p> <p>印刷所 皇典講究所印刷部</p> <p>一〇九 九〇二四</p> <p>二四〇三五</p> <p>三六〇四六 四六〇五一 五一〇五五 五五〇六三 六四</p> <p>印刷所 皇典講究所印刷部</p> <p>一〇二二 一一〇一八</p> | <p>法制論纂續編(第四十九) 法制論纂續編(第二十六)</p> <p>賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂</p> <p>法制論纂續編(第四十九)</p> <p>賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂</p> <p>國史論纂(第七十二) 國史論纂(第四十四) 法制論纂(第六十一) 國史論纂(第五十七)</p> <p>賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂</p> |

| | | | | | |
|-----|---------------------------|--|--|--|---|
| 九十四 | 明治二十六年一月一日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 天皇禮冠考 皇居の古制 美術の濫觴遠く神代にあり 武家時代の民法大要 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 黒川眞頼 本居豊頼 木村正辭 萩野由之 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇一三 一三〇三三 三三〇三八 四八〇六六 六七 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 法制論纂(第二十四) 國史論纂(第十六) 法制論纂(第六十五) |
| 九十五 | 明治二十六年一月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 古代武器説 闕畫擡頭平出闕字 寛永三度の上洛 本朝四聲考(九十の續) 方言及隠語 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 黒川眞頼 郷岡良弼 内藤耻叟 佐藤寛 目黒和三郎 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇一三 一三〇三三 二五〇二四 二五〇三〇 三〇〇六〇 六〇〇六四 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國史論纂(第七十三) 法制論纂續編(第四十五) 國史論纂(第三十二) 國文論纂(第二十二) 國文論纂(第三十四) |
| 九十六 | 明治二十六年二月一日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 方言及隠語(九十五の續) 室町時代守護略表 修史概要(八十九のつゞき) 東照公の雄才大略 美術と歴史との關係 <small>山城國太秦廣隆寺の舊物</small> (九十一の續) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 目黒和三郎 栗田寛 飯田武郷 内藤耻叟 小杉楯郎 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇一三 一三〇三三 二〇〇二八 二九〇四三 四四〇五一 五一〇六三 六四 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國史論纂(第七十二) 法制論纂(第六十四) 國史論纂(第二十九) |
| 九十七 | 明治二十六年二月十五日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 本邦硝子製造の説 雄略天皇紀を讀む 武士道(九十號の續) 志摩國舊地考 富馮子の沿革 取消 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 黒川眞頼 小中村義象 松本愛重 村岡良弼 小宮山綏介 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇一三 一三〇三三 二〇〇二八 二九〇四三 四四〇五一 五一〇六三 六四 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國史論纂(第七十六) 國史論纂(第四十四) 法制論纂續編(第三十四) |
| 九十八 | 明治二十六年三月一日印刷 同年同月同日出版 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 幹事 松野勇雄 湊川楠公碑の話 讀史略説神代上 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 川田剛 久米幹文 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇一三 一三〇三三 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國史論纂(第五十) |

| | | | | | |
|----|---------------------------|---|--|--|---|
| 百三 | 明治二十六年五月十五日印刷 同年同月同日発行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 大貫眞浦 國史は大一統を致すの必要あり 煙草雜録(前號の續) 武士道(九十七の續) 殉死の事 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 目黒和三郎 松本愛重 小宮山綏介 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 一〇八 九〇二六 二六〇五三 五三〇六四 六四 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百四 | 明治二十六年六月一日印刷 同年同月同日発行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 大貫眞浦 殉死の事(前號の續) 下總國郡郷考 嶋津氏と琉球との關係 美術と歴史との關係寧樂の寶庫(百二號の續) 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 小宮山綏介 村岡良弼 横井時冬 小杉楳邨 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 一〇六 六〇三六 三六〇四五 四五〇六四 六五 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國史論纂(第四十五) |
| 百五 | 明治二十六年六月十五日印刷 同年同月同日発行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 大貫眞浦 本邦養蠶沿革 詠歌論 消息文の變遷 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 黒川眞頼 木村正辭 佐藤寛 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 一〇四 一四〇三〇 三〇〇六四 六四 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國史論纂(第七十四) 國文論纂(第四十六) 國文論纂(第四十三) |
| 百六 | 明治二十六年七月一日印刷 同年同月同日発行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 大貫眞浦 徳川氏官制切支丹改の事(七十五の續) 消息文の變遷(百五號の續) 錢稱レ疋及九六錢の考 小堀遠州 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 佐藤寛 小宮山綏介 横井時冬 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 一〇四 二四〇四六 四六〇五九 五九〇六四 六五 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 法制論纂(第七十三) 國史論纂(第三十六) |
| 百七 | 明治二十六年七月十五日印刷 同年同月同日発行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 大貫眞浦 小堀遠州(承前) 美術と歴史との關係 <small>天平前後に渉る年間 寧樂朝財政の現象</small> (百四の續) 尚武の風 第一 相撲并組打 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 横井時冬 小杉楳邨 目黒和三郎 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 一〇七 一七〇三二 三二〇六四 六五 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國史論纂(第七十二) |

| | | | | | |
|-----|---------------------------|---|--|---|--|
| 百八 | 明治二十六年八月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 大貫眞浦 忌服の説 尚武の風(百七の續) 下總國郡郷考(百四の續) 後光明天皇崩御の事につき | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 本居豊穎 目黒和三郎 村岡良弼 内藤耻叟 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇一三 一三〇一八 一九〇五七 五七〇六三 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 法制論纂(第三十三) |
| 百九 | 明治二十六年八月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 大貫眞浦 久米舞の説 元服考 明朝請援始末 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 黒川眞頼 松本愛重 萩野由之 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇一八 一九〇三六 三六〇六四 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 法制論纂(第六十四) 法制論纂(第三十二) 國史論纂(第四十) |
| 百十 | 明治二十六年九月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 大貫眞浦 脩史概略(九十六の續) 明朝請援始末(百九の續) 風俗歌話 下總國郡郷考(百八號の續) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 飯田武郷 萩野由之 佐藤寛 村岡良弼 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇一三 一三〇二〇 二〇〇四〇 四〇〇六四 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國文論纂(第四十九) |
| 百十一 | 明治二十六年九月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 大貫眞浦 中古以來世職世業 山陵修復の嚆矢 角倉與一の文學 語格一定の方案の出でんことを望む | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 小中村清矩 萩野由之 横井時冬 目黒和三郎 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇一四 一四〇三四 三四〇四六 四七〇六四 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 法制論纂(第十二) 國史論纂(第十七) |
| 百十二 | 明治二十六年十月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 大貫眞浦 祥瑞考證 義上切腹の事 佐渡國地名考 漢風の神祭 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 飯田武郷 内藤耻叟 萩野由之 松本愛重 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇一九 九〇一八 一八〇四九 四九〇六三 六五 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國史論纂(第四十六) 六四頁は白紙 |
| 百十三 | 明治二十六年十月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 大貫眞浦 中山大納言正親町大納言對話一件 武術の源流 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 小宮山綏介 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇一九 一九〇三二 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國史論纂(第五十九) |

| | | | | | |
|------|---------------------------|---|---|-----------------|-----------------------------|
| 百十九 | 明治二十七年一月十五日印刷 同年同月同日発行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 桑原芳樹 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 小宮山綏介 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百二十 | 明治二十七年二月一日印刷 同年同月同日発行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 桑原芳樹 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 西村茂樹 栗田寛 丸山正彦 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百二十一 | 明治二十七年二月十五日印刷 同年同月同日発行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 桑原芳樹 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 小中村清矩 栗田寛 小宮山綏介 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百二十二 | 明治二十七年三月一日印刷 同年同月同日発行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 小中村義象 丸山正彦 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百二十三 | 明治二十七年三月十五日印刷 同年同月同日発行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 萩野由之 松本愛重 佐藤誠實 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百二十四 | 明治二十七年四月一日印刷 同年同月同日発行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 栗田寛 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| | | 一代理一度奉幣の社の考附驛路鈴の事 國語國文の盛衰を論じて現今の状に及ぶ | 小中村義象 | 四九〇五九 | 國史論纂(第八十一) |
| | | 江戸幕府時代の海運 | 横井時冬 | | |

| | | | | | | |
|------|-------------------------|--|---|-------------------------------------|----------------------|-----------------------------|
| 百二十五 | 明治二十七年四月十五日印刷 同年同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 | 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百二十六 | 明治二十七年五月一日印刷 同年同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 | 豐家忠臣の一人 文庫考 歌談 豐家忠臣の一人 臣民朋黨の禍常に皇室に及ぶ 春日御社祭文につきての管見 群飲の制 臣民朋黨の禍常に皇室に及ぶ 群飲の制 豐家忠臣の一人(承前) 史話三條 紀事 | 印刷者 丸山正彦 萩野由之 本居豐穎 近藤圭造 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百二十七 | 明治二十七年五月十五日印刷 同年同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 | 後宮沿革略考 郷名同唱考 <small>留別志</small> 武家時代文學の状況 豐家忠臣の一人(承前) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百二十八 | 明治二十七年六月一日印刷 同年同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 | 郷名同唱考 <small>留別志</small> 德川氏の宗統六絶 皇室と文學と(百十九の續) 紀事 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百二十九 | 明治二十七年六月十五日印刷 同年同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 | 郷名同唱考 <small>留別志</small> 北海道開拓の起源 被帽脱帽の説 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百三十 | 明治二十七年七月一日印刷 同年同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 | 郷名同唱考 <small>留別志</small> (承前) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 | 印刷所 同 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |

五九

| | | | | | | |
|------|----------------------------|--|--|---|---|-----------------------------|
| 百三十六 | 明治二十七年十月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 南山雜攷(承前) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 井上頼圀 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇六 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 | |
| 百三十七 | 明治二十七年十月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 穴居說 徳川氏の祖先參河に入るの年月に就きて 僧侶の官位(承前) 言語雜考の一 父音母韻論 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 黒川眞頼 内藤耻叟 松本愛重 本居豊穎 落合直文 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇二 一一二 一二二 一三三 一四三 一五三 一六三 一七三 一八三 一九三 二〇三 二一三 二二三 二四三 二五三 二六三 二七三 二八三 二九三 三〇三 三一三 三二三 三四三 三五三 三六三 三七三 三八三 三九三 四〇三 四一三 四二三 四四三 四五三 四六三 四七三 四八三 四九三 五〇三 五一三 五二三 五四三 五五三 五六三 五七三 五八三 五九三 六〇三 六一三 六二三 六四三 六五三 六六三 六七三 六八三 六九三 七〇三 七一三 七二三 七四三 七五三 七六三 七七三 七八三 七九三 八〇三 八一三 八二三 八四三 八五三 八六三 八七三 八八三 八九三 九〇三 九一三 九二三 九四三 九五三 九六三 九七三 九八三 九九三 一〇〇三 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇二 一一二 一二二 一三三 一四三 一五三 一六三 一七三 一八三 一九三 二〇三 二一三 二二三 二四三 二五三 二六三 二七三 二八三 二九三 三〇三 三一三 三二三 三四三 三五三 三六三 三七三 三八三 三九三 四〇三 四一三 四二三 四四三 四五三 四六三 四七三 四八三 四九三 五〇三 五一三 五二三 五四三 五五三 五六三 五七三 五八三 五九三 六〇三 六一三 六二三 六四三 六五三 六六三 六七三 六八三 六九三 七〇三 七一三 七二三 七四三 七五三 七六三 七七三 七八三 七九三 八〇三 八一三 八二三 八四三 八五三 八六三 八七三 八八三 八九三 九〇三 九一三 九二三 九四三 九五三 九六三 九七三 九八三 九九三 一〇〇三 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百三十八 | 明治二十七年十一月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 穴居說第二回 我日本天皇東洋の主權者たるべき事 古俗所稱尊號 郷名同唱考(別名南)(百三十六の續) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 黒川眞頼 内藤耻叟 石井小太郎 栗田寛 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇三 一一三 一二三 一三三 一四三 一五三 一六三 一七三 一八三 一九三 二〇三 二一三 二二三 二四三 二五三 二六三 二七三 二八三 二九三 三〇三 三一三 三二三 三四三 三五三 三六三 三七三 三八三 三九三 四〇三 四一三 四二三 四四三 四五三 四六三 四七三 四八三 四九三 五〇三 五一三 五二三 五四三 五五三 五六三 五七三 五八三 五九三 六〇三 六一三 六二三 六四三 六五三 六六三 六七三 六八三 六九三 七〇三 七一三 七二三 七四三 七五三 七六三 七七三 七八三 七九三 八〇三 八一三 八二三 八四三 八五三 八六三 八七三 八八三 八九三 九〇三 九一三 九二三 九四三 九五三 九六三 九七三 九八三 九九三 一〇〇三 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇三 一一三 一二三 一三三 一四三 一五三 一六三 一七三 一八三 一九三 二〇三 二一三 二二三 二四三 二五三 二六三 二七三 二八三 二九三 三〇三 三一三 三二三 三四三 三五三 三六三 三七三 三八三 三九三 四〇三 四一三 四二三 四四三 四五三 四六三 四七三 四八三 四九三 五〇三 五一三 五二三 五四三 五五三 五六三 五七三 五八三 五九三 六〇三 六一三 六二三 六四三 六五三 六六三 六七三 六八三 六九三 七〇三 七一三 七二三 七四三 七五三 七六三 七七三 七八三 七九三 八〇三 八一三 八二三 八四三 八五三 八六三 八七三 八八三 八九三 九〇三 九一三 九二三 九四三 九五三 九六三 九七三 九八三 九九三 一〇〇三 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百三十九 | 明治二十七年十一月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 法曹至要鈔の作者 神の使者といふ事 俘虜の説 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 井上頼圀 栗田寛 飯島誠 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇四 一一四 一二四 一三四 一四四 一五四 一六四 一七四 一八四 一九四 二〇四 二一四 二二四 二三四 二四四 二五四 二六四 二七四 二八四 二九四 三〇四 三一四 三二四 三三四 三四四 三五四 三六四 三七四 三八四 三九四 四〇四 四一四 四二四 四三四 四四四 四五四 四六四 四七四 四八四 四九四 五〇四 五一四 五二四 五三四 五四四 五五四 五六四 五七四 五八四 五九四 六〇四 六一四 六二四 六三四 六四四 六五四 六六四 六七四 六八四 六九四 七〇四 七一四 七二四 七三四 七四四 七五四 七六四 七七四 七八四 七九四 八〇四 八一四 八二四 八三四 八四四 八五四 八六四 八七四 八八四 八九四 九〇四 九一四 九二四 九三四 九四四 九五四 九六四 九七四 九八四 九九四 一〇〇四 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇四 一一四 一二四 一三四 一四四 一五四 一六四 一七四 一八四 一九四 二〇四 二一四 二二四 二三四 二四四 二五四 二六四 二七四 二八四 二九四 三〇四 三一四 三二四 三三四 三四四 三五四 三六四 三七四 三八四 三九四 四〇四 四一四 四二四 四三四 四四四 四五四 四六四 四七四 四八四 四九四 五〇四 五一四 五二四 五三四 五四四 五五四 五六四 五七四 五八四 五九四 六〇四 六一四 六二四 六三四 六四四 六五四 六六四 六七四 六八四 六九四 七〇四 七一四 七二四 七三四 七四四 七五四 七六四 七七四 七八四 七九四 八〇四 八一四 八二四 八三四 八四四 八五四 八六四 八七四 八八四 八九四 九〇四 九一四 九二四 九三四 九四四 九五四 九六四 九七四 九八四 九九四 一〇〇四 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百四十 | 明治二十七年十二月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 僧侶の官位(百三十七の續) 忠孝の風は強盛の本原 郷名同唱考(別名南)(百三十八の續) 姨捨山考 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 松本愛重 内藤耻叟 栗田寛 佐藤寛 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇五 一一五 一二五 一三五 一四五 一五五 一六五 一七五 一八五 一九五 二〇五 二一五 二二五 二三五 二四五 二五五 二六五 二七五 二八五 二九五 三〇五 三一五 三二五 三三五 三四五 三五五 三六五 三七五 三八五 三九五 四〇五 四一五 四二五 四三五 四四五 四五五 四六五 四七五 四八五 四九五 五〇五 五一五 五二五 五三五 五四五 五五五 五六五 五七五 五八五 五九五 六〇五 六一五 六二五 六三五 六四五 六五五 六六五 六七五 六八五 六九五 七〇五 七一五 七二五 七三五 七四五 七五五 七六五 七七五 七八五 七九五 八〇五 八一五 八二五 八三五 八四五 八五五 八六五 八七五 八八五 八九五 九〇五 九一五 九二五 九三五 九四五 九五五 九六五 九七五 九八五 九九五 一〇〇五 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇五 一一五 一二五 一三五 一四五 一五五 一六五 一七五 一八五 一九五 二〇五 二一五 二二五 二三五 二四五 二五五 二六五 二七五 二八五 二九五 三〇五 三一五 三二五 三三五 三四五 三五五 三六五 三七五 三八五 三九五 四〇五 四一五 四二五 四三五 四四五 四五五 四六五 四七五 四八五 四九五 五〇五 五一五 五二五 五三五 五四五 五五五 五六五 五七五 五八五 五九五 六〇五 六一五 六二五 六三五 六四五 六五五 六六五 六七五 六八五 六九五 七〇五 七一五 七二五 七三五 七四五 七五五 七六五 七七五 七八五 七九五 八〇五 八一五 八二五 八三五 八四五 八五五 八六五 八七五 八八五 八九五 九〇五 九一五 九二五 九三五 九四五 九五五 九六五 九七五 九八五 九九五 一〇〇五 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |

| | | | | | |
|------|---------------------------|---|--|--|--|
| 百四十六 | 明治二十八年三月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 古謠集 後水尾上皇御製を松平信綱に賜はり し事 鶴の庖丁 和漢 漢和 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 栗田寛 内藤耻叟 小宮山綏介 横井時冬 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇二六 二六〇三六 三六〇四三 四三〇五二 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國文論纂(第五十二) |
| 百四十七 | 明治二十八年三月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 古謠集(承前) 家紋集說 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 栗田寛 小宮山綏介 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇二八 二八〇六六 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國文論纂(第五十二) 國史論纂(第六十九) |
| 百四十八 | 明治二十八年四月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 支言考 商業の株式 安徳天皇御陵考補遺 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 故人 物集高世 横井時冬 高山昇 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇一八 一九〇四一 四一〇五六 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 法制論纂續編(第三十六) |
| 百四十九 | 明治二十八年四月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 威震の機に乗して大道を擴張すべし わが國の辭書 古謠集(承前) 徳川氏官制通考(四) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 小中村清矩 栗田寛 萩野由之 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇一八 八〇三七 三七〇七四 七四〇八六 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國文論纂(第十七) 國文論纂(第五十二) 法制論纂續編(第二十五) |
| 百五十 | 明治二十八年五月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 飯島誠 支言考(承前) 典籍雜攷(承前) 古今城制考 印旛沼經始考 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 故人 物集高世 井上頼因 小宮山綏介 織田完之 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇二七 一七〇二七 二七〇四九 四九〇七〇 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國史論纂(第四十二) |
| 百五十一 | 明治二十八年五月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 業は博大を要し、教は純一を欲す 古謠集(承前) 古刑法の一斑 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 栗田寛 小宮山綏介 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇九 九〇四二 四二〇六二 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國文論纂(第五十二) 法制論纂(第四十二) |

| | | | | | |
|------|---------------------------|--|---|--|---|
| 百五十二 | 明治二十八年六月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 敬神は強兵の本 孝徳天皇紀通釋 古謠集(承前) 支言考(百五十の續) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 飯田武郷 栗田寛 故人 物集高世 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇〇八 八〇二〇 二〇〇四八 四八〇六四 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國文論纂(第五十二) |
| 百五十三 | 明治二十八年六月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 大道を世界に宣布するは學者の責任 古謠集(承前) 支言考(承前) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 栗田寛 故人 物集高世 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇五五 五〇五八 五八〇六二 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國文論纂(第五十二) |
| 百五十四 | 明治二十八年七月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 我が神祇は萬國の神と異なり 倭寇の始末 古謠集(承前) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 小宮山綏介 栗田寛 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇六六 六〇一九 一九〇六六 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國文論纂(第三十八) 國文論纂(第五十二) |
| 百五十五 | 明治二十八年七月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 祭政惟一 古謠集(承前) 孝徳天皇紀通釋(百五十二の續) 支言考(承前) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 栗田寛 飯田武郷 故人 物集高世 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇七七 七〇二一 二一〇三六 三六〇六三 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國文論纂(第五十二) |
| 百五十六 | 明治二十八年八月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 國學院第三回卒業式の演説 古謠集(承前) 徳川氏政治の大綱第一 孝徳天皇紀通釋(承前) 倭寇の始末追加 國體私考 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 黒川眞頼 栗田寛 内藤耻叟 飯田武郷 小宮山綏介 木村春太郎 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇八〇 一〇二二 一三〇三一 三〇四二 四三〇五一 五一〇六四 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國文論纂(第五十二) 國史論纂(第二十八) |
| 百五十七 | 明治二十八年八月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 古謠集(承前) 徳川氏政治の大綱其二 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 栗田寛 内藤耻叟 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇三三 一三〇三三 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國文論纂(第五十二) 國史論纂(第二十八) |

| | | | | | |
|------|----------------------------|--|---|--|--|
| 百六十三 | 明治二十八年十一月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百六十二 | 明治二十八年十一月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 古謠集(承前) 肅慎韃靼の地名考 三將皇室の再興を圖る 臨時救祭例(百六十の續) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 栗田寛 内藤耻叟 小宮山綏介 木村春太郎 | 印刷所 皇典講究所印刷部 同 一〇二四 二四〇三六 三六〇四九 四九〇六二 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國文論纂(第五十二) 國史論纂(第九) |
| 百六十一 | 明治二十八年十月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 徳川氏政治の大綱 第四 古謠集(承前) 舊江戸火災消防の概略 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 栗田寛 小宮山綏介 | 印刷所 皇典講究所印刷部 同 一〇五 五〇三二 三二〇五九 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國史論纂(第二十八) 國文論纂(第五十二) 法制論纂續編(第四十) |
| 百六十 | 明治二十八年十月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 尚武論 古謠集(百五十八の續) 攝津國郡考(承前) 近世武家の儀從 臨時救祭例(承前) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 栗田寛 村岡良弼 小宮山綏介 木村春太郎 | 印刷所 皇典講究所印刷部 同 一〇五 五〇三二 一四〇三七 三七〇五六 五六〇六八 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國史論纂(第四十七) 國文論纂(第五十二) |
| 百五十九 | 明治二十八年九月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 光仁紀童謠僻案并大日本史誤繆一節 徳川政治の大綱 第三 攝津國郡考(百十五の續) 臨時救祭例 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 栗田寛 内藤耻叟 村岡良弼 木村春太郎 | 印刷所 皇典講究所印刷部 同 一〇二九 二九〇三六 三六〇四五 五五〇六四 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國史論纂(第二十八) |
| 百五十八 | 明治二十八年九月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 古謠集(承前) 敬神十義解 孝徳天皇紀通釋(百五十六の續) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 栗田寛 内藤耻叟 飯田武郷 | 印刷所 皇典講究所印刷部 同 一〇三四 三四〇四七 四八〇六四 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國文論纂(第五十二) |
| | | 詔書救書の區別 中山信名の傳 國體私考(承前) | 村岡良弼 栗田寛 木村春太郎 | 一三〇三五 三五〇四一 四一〇五六 | 國史論纂(第十四) |

| | | | | | | |
|------|----------------------------|--|--|---|-----------------------------|-----------------------------|
| 百六十七 | 明治二十九年一月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 神國の尊 古謠集(承前) 古刑法の一斑再追加 孝德天皇紀通釋(百六十五の續) 附録『祇園精舎圖』 | 年始祝事考 幕府老中の招請 祇園精舎の圖を觀て所感を述ぶ 新年の賀詞 代表者講演主任 久保惠隣 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 發行者 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 栗田寛 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百六十六 | 明治二十九年一月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 新年の賀詞 祇園精舎の圖を觀て所感を述ぶ 幕府老中の招請 年始祝事考 發行者 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 栗田寛 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 | |
| 百六十五 | 明治二十八年十二月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 古謠集(承前) 徳川將軍葬禮の概略 白石著書 孝德天皇紀通釋(承前) 臨時敕祭例(百六十二の續) 附録『皇典講究所職員國學院職員皇 典講究所學階人名録』出版廣告 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 栗田寛 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 | |
| 百六十四 | 明治二十八年十二月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 答問五則 臨鏡釋(後某院 女名稱於或子、人名船號稱麻呂 古謠集(承前) 古刑法の一斑追加 肅慎鞆地名考追加 孝德天皇紀通釋(承前) 附録『現行神社法令附寺院法令』出 版廣告 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 栗田寛 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 | |
| | | 古謠集(承前) 三將軍皇室の再興を圖る(承前) 武士の用意 孝德天皇紀通釋(百五十八の續) | 栗田寛 小宮山綏介 内藤耻叟 飯田武郷 | 一〇二五 二五〇三九 三九〇五〇 五〇〇六二 | 國文論纂(第五十二) | |

| | | | | | |
|------|---------------------------|--|--|---|---|
| 百六十八 | 明治二十九年二月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 古謠集(承前) 臺灣はもと我所屬島なりし事 老中若年寄の逢對 孝徳天皇紀通釋(承前) 附録『現行神社法令』出版廣告 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 栗田寛 内藤耻叟 小宮山綏介 飯田武郷 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇二二 一一〇二七 二七〇四六 四六〇五四 本學になし | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國文論纂(第五十二) |
| 百六十九 | 明治二十九年二月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 外國人雜居の日最も氏子帳の切要を感ず 水戸義公逸事 舊幕府の時行路病者棄兒等の取扱 孝徳天皇紀通釋(承前) 狩獵部類考 附録『再版現行神社法令』廣告 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 内藤耻叟 小宮山綏介 飯田武郷 木村春太郎 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇六 一六〇一六 一六〇三七 三七〇四八 四八〇六九 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 法制論纂續編(第四十二) |
| 百七十 | 明治二十九年三月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 古謠集(承前) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 栗田寛 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇五四 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國文論纂(第五十一) |
| 百七十一 | 明治二十九年三月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 日本史論贊を刪ること 古刑法一斑第三追加 孝徳天皇紀通釋(百六十九の續) 狩獵部類考(百六十九の續) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 小宮山綏介 飯田武郷 木村春太郎 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇一六 一六〇三四 三四〇五〇 五〇〇六七 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 法制論纂(第四十四) |
| 百七十二 | 明治二十九年四月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 徳川時代武家皇室に對する議論 古謠集(承前) 舊幕府の時行路病者棄兒等の取扱追 加附洗兒の事 狩獵部類考(承前) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 栗田寛 小宮山綏介 木村春太郎 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇三六 一〇三五五 五五〇六三 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 國史論纂(第二十七) 國文論纂(第五十二) 法制論纂續編(第四十三) |

| | | | | | |
|------|---------------------------|---|---|-----------------|-----------------------------|
| 百七十三 | 明治二十九年四月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 徳川時代武家皇室に對する議論(承前) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | 賣捌所 東京市神田區南神保町二番地 博弘堂 |
| 百七十四 | 明治二十九年五月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 徳川時代武家奉公人の事 古謠集(承前) 端午の石戰并幟青 孝徳天皇紀通釋(承前) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 栗田寛 小宮山綏介 飯田武郷 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | 國史論纂(第四十八) 國文論纂(第五十二) |
| 百七十五 | 明治二十九年五月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 日本の祖は呉太伯也と云ふ説に付き の事 楠公の心事楠公遠忌の日演説 有氣無氣の事 端午の石戰并幟青の追加 孝徳天皇紀通釋(承前) 國制變遷の概言 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 小宮山綏介 小宮山綏介 飯田武郷 木村春太郎 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | 法制論纂續編(第五十二) |
| 百七十六 | 明治二十九年六月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 阿部豊後守忠秋の忠言 喪葬雜考 孝徳天皇紀通釋(承前) 國家教と宗教との辨 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 小宮山綏介 飯田武郷 木村春太郎 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | |
| 百七十七 | 明治二十九年六月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 神道は佛敎宗敎に非ざる事 古謠集(百七十四の續) 元始抄 喪葬雜考(承前) 孝徳天皇紀通釋(承前) | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 故人 栗田寛 久保季茲 飯田武郷 | 印刷所 皇典講究所印刷部 | 國文論纂(第五十二) 法制論纂續編(第五十六) |

| | | | | | |
|------|---------------------------|--|--|---|-------------------------------------|
| 百七十八 | 明治二十九年七月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 劉氏の歸化につきて | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 栗田寛 久保季茲 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇六 六〇三二 三二〇四四 四四〇四九 五〇〇六三 | 國文論纂(第五十二) |
| 百七十九 | 明治二十九年七月十五日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 古謠集(承前) 紅葉の光 曆書の沿革 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 栗田寛 内藤耻叟 小宮山綏介 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇三三 二四〇三六 三六〇四九 | 國文論纂(第五十二) 國史論纂(第六十) |
| 百八十 | 明治二十九年八月一日印刷 同年同月同日發行 | 發行者 東京市麹町區飯田町五丁目八番地 皇典講究所 代表者講演主任 久保惠隣 皇族相門の盛衰 古謠集(承前) 曆書の沿革(承前) 附録『本所講演都合ニヨリ本回限りニテ當分休刊致候也』 | 印刷者 東京市麹町區飯田町五丁目二十六番地 近藤圭造 内藤耻叟 栗田寛 小宮山綏介 | 印刷所 皇典講究所印刷部 一〇二二 二二〇五二 五二〇六四 | 國史論纂(第八) 國文論纂(第五十二) 國史論纂(第六十) |